



第73回早慶バスケットボール定期戦

BIG BEARS

THE ANNUAL MATCH 2015

UNICORNS

Time Table

09:15～ 開場
09:30～ 男子Bチーム戦 (10分4Q)
11:00～ OG戦 (7分スルー4Q)
12:00～ OB戦 (7分スルー4Q)

13:10～ 開会式 (選手整列、エール交換)
13:50～ 女子戦 (10分4Q)
15:40～ 男子戦 (10分4Q)
17:10～ 閉会式 (選手整列、優勝校表彰等)



部長 大谷 俊郎 慶應義塾大
監督 権田 哲也 慶應義塾大
H・コーチ 阪口 裕昭 慶應義塾大
A・コーチ 関 淳平 慶應義塾大
A・コーチ 石田 剛規 慶應義塾大
S・コーチ 木塚 孝幸 慶應義塾大



C・コーチ 木畑 実麻 慶應義塾大
主務 平山 浩樹 都立西 法律・4



学生コーチ 田辺 夏彦 慶應義塾湘南藤沢 経済・4
学生トレーナー 角田 侑大華 慶應義塾 商・4

Portrait of 福元 直人
ふくもと なおと
福元 直人
環境情報 4
① G ② 186 ③ 84
④ A ⑤ 1993/4/10
⑥ 福大大濠
⑦ 2年連続優勝に向け、40分間の確な指示とゲームプランを遂行します。

Portrait of 大元 孝文
おおもと たかふみ
大元 孝文
環境情報 4
① SG ② 181 ③ 78
④ B ⑤ 1993/7/31
⑥ 洛南
⑦ チームの勝利に貢献します。

Portrait of 桑原 竜馬
くわはら りょうま
桑原 竜馬
経済 4
① G ② 180 ③ 75
④ A ⑤ 1993/5/20
⑥ 県立厚木東
⑦ 若き血をもう一度!

Portrait of 黒木 亮
くろぎ りょう
黒木 亮
環境情報 4
① CF ② 192 ③ 89
④ O ⑤ 1994/3/22
⑥ 延岡学園
⑦ 聖地・代々木で大勝利を! 共に若き血を!

Portrait of 清家 智
せいけ さとし
清家 智
経済 4
① F ② 186 ③ 83
④ B ⑤ 1993/4/26
⑥ 慶應義塾
⑦ 一塾生として今までの慶早戦に挑めたことを誇りに思い、全力で勝ちにいきます。

Portrait of 中島 一樹
なかじま いっき
中島 一樹
総合政策 4
① G ② 168 ③ 70
④ O ⑤ 1993/5/1
⑥ 県立高崎
⑦ 地味なことを全力で。応援宜しくお願いします。

Portrait of 真木 達
まき たつみ
真木 達
環境情報 4
① G ② 183 ③ 80
④ A ⑤ 1993/7/27
⑥ 國學院久我山
⑦ 自分に厳しく、日々成長。

Portrait of 山崎 哲
やまざき さとし
山崎 哲
環境情報 4
① C ② 193 ③ 93
④ B ⑤ 1993/8/10
⑥ 県立秋田
⑦ 絶対勝つ。

Portrait of 後藤 宏太
ごとう こうた
後藤 宏太
環境情報 3
① G ② 175 ③ 71
④ A ⑤ 1994/10/17
⑥ 藤枝明誠
⑦ あの感動をもう一度。

Portrait of 西戸 良
にしど りょう
西戸 良
総合政策 3
① G ② 178 ③ 73
④ O ⑤ 1994/7/13
⑥ 洛南
⑦ 会場を熱くする勝利を。

Portrait of 藤井 和朗
ふじい かずお
藤井 和朗
経済 3
① F ② 180 ③ 74
④ A ⑤ 1994/6/21
⑥ 慶應義塾
⑦ 上級生としてチームを下から支えています。

Portrait of 松岡 祐介
まつおか ゆうすけ
松岡 祐介
経済 3
① G ② 169 ③ 64
④ A ⑤ 1994/6/17
⑥ 慶應義塾湘南藤沢
⑦ 今年も勝って若き血を歌いたいです。

Portrait of 大村 航生
おおむら こうき
大村 航生
環境情報 2
① G ② 167 ③ 62
④ B ⑤ 1995/8/20
⑥ 立正
⑦ 完全勝利!

Portrait of 加藤 舜王
かとう としたか
加藤 舜王
政治 2
① G ② 162 ③ 60
④ A ⑤ 1995/6/8
⑥ 慶應義塾志木
⑦ チームの為に全力を尽くす。

Portrait of 高橋 晃史郎
たかはし こうしろう
高橋 晃史郎
政治 2
① F ② 191 ③ 87
④ AB ⑤ 1995/8/11
⑥ 慶應義塾
⑦ 陸の王者、勝ちます。

Portrait of 堂本 阿斗ディーン
どうもと あと
堂本 阿斗ディーン
商 2
① F ② 187 ③ 87
④ B ⑤ 1995/8/18
⑥ 慶應義塾
⑦ 憧れて来た代々木での慶早戦。さあ、行こうか。

Portrait of 澤近 智也
さわちか ともや
澤近 智也
環境情報 1
① F ② 185 ③ 75
④ O ⑤ 1997/1/6
⑥ 高知学芸
⑦ 自分の役割を果たします!

Portrait of 鳥羽 陽介
とば ようすけ
鳥羽 陽介
環境情報 1
① G ② 183 ③ 80
④ B ⑤ 1996/5/4
⑥ 福大大濠
⑦ 慶應の勝利に貢献します。

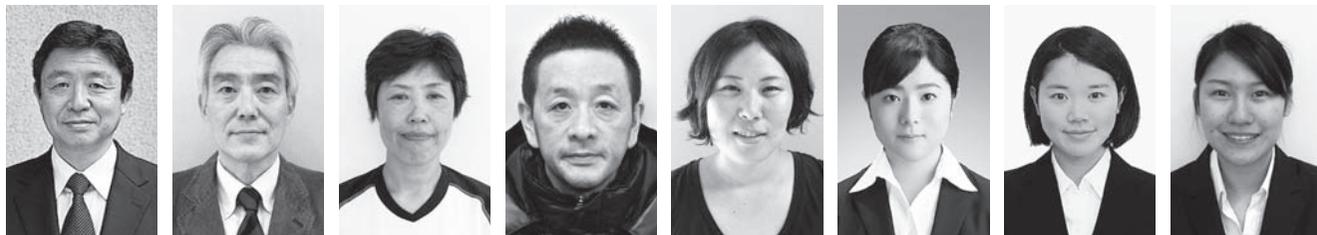
Portrait of トカチョフ サワ
トカチョフ サワ
環境情報 2
① CF ② 192 ③ 80
④ A ⑤ 1995/10/14
⑥ 國學院久我山
⑦ 気迫溢れるプレーで勝利を目指します

Portrait of 木村 能生
きむら よしき
木村 能生
環境情報 2
① CF ② 192 ③ 84
④ O ⑤ 1995/7/24
⑥ 東山
⑦ 絶対2連覇します!



氏名	学部・学年	P	身長	体重	血液型	生年月日	出身校	自己アピール
山崎 健詞	経 済 4	SFC高 コーチ	173	70	O	1993/ 4/17	慶應義塾湘南 藤沢	commitment、勝刻、殊勝、真直。 若き血。風林会館。
柴田 篤志	経 済 4	学連 派遣	173	65	A	1993/11/30	慶應義塾志木	4年の維持！JUST DO IT!
金井 堅介	環境情報 3	副務	187	80	AB	1994/ 9/ 2	県立横浜 緑ヶ丘	今年は聖地。代々木で逆襲。
金子 育史	法 律 3	志木高 コーチ	182	71	AB	1995/ 2/ 2	慶應義塾志木	去年の感動をもう一度。
丸岩 伴彬	経 済 3	学生レ ーナー	181	75	B	1994/ 3/11	都立富士	自分の役割を考え行動する。
服部信太郎	商 2	マネー ジャー	185	80	A	1994/ 6/ 3	巣鴨	常にチームに何が足りないのかを考え、 補います！
林 源	経 済 2	塾高 コーチ	173	63	O	1995/ 7/ 7	慶應義塾	高校、大学共に全力で支えます。
原 義裕	政 治 2	G	180	78	B	1995/ 7/24	慶應義塾湘南 藤沢	勇猛精進
山本 晴太	法 律 2	志木高 コーチ	175	67	A	1995/10/ 2	慶應義塾志木	伝統の一戦。負ける訳にはいきません。
小川 翔平	総合政策 1	G	158	60	O	1996/10/21	大宮開成	慶應の一員としてがんばります！
瓦 脩生	理 工 1	G	164	65	不明	1997/ 2/10	慶應義塾湘南 藤沢	目指すは勝利のみ。
吉敷 秀太	政 治 1	G	175	70	A	1996/10/19	慶應義塾志木	出来ることを精一杯やります。
小原 陸	政 治 1	G	173	65	A	1997/ 1/ 6	慶應義塾志木	役割を全力で果たします。
濱津幸太郎	法 律 1	F	180	70	B	1996/ 9/16	函館ラ サール	全身全霊でチームをサポートします。
原 匠	環境情報 1	G	167	65	B	1996/ 5/27	近大付属	勝利へ！心ひとつに。





部長 監督 ヘッドコーチ コディンクコーチ チームドクター 主務 学生コーチ 女子高コーチ

大谷 俊郎 関 雅之 岩崎 友子 木塚 孝幸 伊藤 恵梨 吉次 真秀子 野尻 友里香 瀧本 有加

慶應義塾大学 慶應義塾大学 日本体育大学 慶應義塾大学 高知大学 慶應義塾湘南藤沢 慶應義塾女子 慶應義塾女子



とらいわ りか
虎岩 里佳
商 4

① F ② 160 ③ AB
④ 1993/8/18
⑤ 慶應義塾女子
⑥ 完全燃焼!!



さかい あや
酒井 亜弥
看護 4

① F ② 160 ③ O
④ 1992/12/20
⑤ 愛知淑徳
⑥ チーム一走ります!



えんどう まおか
遠藤 真央香
理工 4

① F ② 160 ③ AB
④ 1994/2/26
⑤ 県立横浜平沼
⑥ Do my best!!



しゅうどう あやな
周東 彩菜
文 4

① F ② 158 ③ A
④ 1993/5/10
⑤ 都立日比谷
⑥ 最後の慶早戦、全力を
尽くします。



なかむら みさと
中村 実里
文 3

① G ② 168 ③ A
④ 1994/1/27
⑤ 八雲学園
⑥ 挑戦する気持ちをもっ
て精一杯頑張ります。



いしはら さおり
石原 早織
経済 3

① C ② 164 ③ A
④ 1994/4/18
⑤ 都立日比谷
⑥ 全力を尽くしこの一戦
からたくさんのことを
学びたいです。



しみず あさこ
清水 麻子
政治 3

① F ② 165 ③ AB
④ 1994/7/31
⑤ 慶應義塾女子
⑥ 自分にできることを全
力で頑張ります。



ほさか よしえ
保坂 淑恵
経済 3

① C ② 174 ③ A
④ 1994/8/6
⑤ 豊島岡女子学園
⑥ チームに貢献できるよ
う頑張ります。

※ ①ポジション ②身長 ③血液型 ④生年月日 ⑤出身校 ⑥自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)



みつだ みなみ
光田 美波
政治 2

① F ② 164 ③ A
④ 1995/9/17
⑤ 岡山朝日
⑥ チームの一員として精
一杯頑張りたいです。



かめだ はづき
亀田 葉月
文 2

① G ② 160 ③ O
④ 1995/8/8
⑤ 雙葉
⑥ 積極的にゴールを狙っ
て頑張ります。



むらい むつみ
村井 睦
商 2

① G ② 160 ③ B
④ 1995/10/12
⑤ 慶應義塾女子
⑥ 初めての慶早戦、全力
で頑張ります!



いそべ さき
磯部 紗希
文 1

① G ② 157 ③ A
④ 1996/6/27
⑤ 國學院久我山
⑥ 全力で思い切ってプ
レーします。



とよむら さえ
豊村 沙恵
商 1

① C ② 170 ③ AB
④ 1995/5/5
⑤ 慶應義塾ニューヨーク
学院
⑥ 一步目を意識して臨み
ます!



たかせ かりん
高瀬 華琳
経済 1

① F ② 166 ③ B
④ 1996/9/12
⑤ 広尾学園
⑥ 伝統の慶早戦で少しで
もチームに貢献できる
ように頑張ります!



※ ①ポジション ②身長 ③血液型 ④生年月日 ⑤出身校 ⑥自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)

真

直

慶應



2014年シーズンは、本塾にとって飛躍の年であったといえるだろう。トーナメントではベスト16と奮わなかったが、4年ぶりの1部リーグで迎えた秋季リーグでは他の大学に全く劣らない戦いを見せ、9勝9敗という成績を残し8位でリーグを終えた。

次ぐインカレもベスト8に入り4年ぶりにAII JAPAN出場、そして7大会目にして初の延世定期戦勝利など立派な成績を残し、陸の王者としての片鱗を見せてきた。

昨年6月の慶早戦では、前半までの均衡した試合を持ち前のディフェンスで制し4年ぶりの慶早戦優勝。ホームコートである日吉記念館に若き血を響かせ、脳がとろけるような喜びを味わった。4年ぶりの慶早戦優勝。これよりも嬉しいことがあるだろうか？ この味を知った彼らは、今年もこの喜びに飢えている。

そして、今年のスローガンは「真直」。真面目に愚直に真摯にバスケットボールに取り組む。これは、他大学には無い我々の強みであり、この姿勢こそが日本一になるための近道であるという意図である。



4 福元直人 主将(4年生)

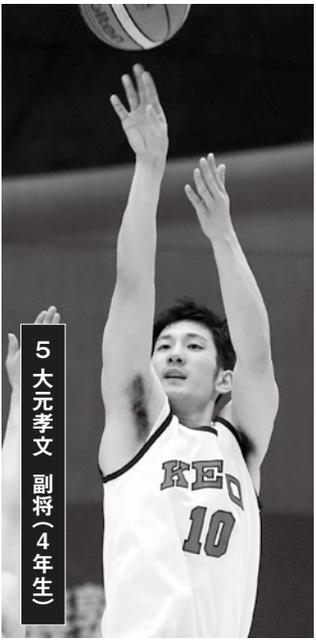
直に真摯にバスケットボールに取り組む。これは、他大学には無い我々の強みであり、この姿勢こそが日本一になるための近道であるという意図である。

慶早戦優勝と日本一という目標のもと、連覇の二文字を掲げ代々木第二体育館に勝利をもち取りにいく。陸の王者完全復活のために、全員が役割を果たし必ず勝利を掴み取る。

集大成

今シーズンチームの鍵を握るのは、間違いなく4年生である。入学当初から主力として試合に出ていたタレントぞろいの彼らを紹介しよう。

まずは、本塾の絶対的キャプテンである福元直人だ。彼の巧みなハンドリングと鍛え抜かれた体から繰り出されるトリッキーなパスで、見るもの全てを魅了する。キャプテンとしてチームを常に引っ張り、



5 大元孝文 副将(4年生)

チームの精神的柱となった。絶対的な彼のキャプテンシーと、「真直」たる姿勢がチームを勝利へと導く。

そして、得点力に期待のかかる本塾のスーパースターである大元孝文。類稀なる身体能力から繰り広げられるドライブ・ダンク・リバウンド、たゆまぬ努力から量産されるスリーポイント、まさにアンストoppable。むらつきがある彼だが、一度彼のスイッチが入ってしまったらディフェンスなどいらないも同然。本塾の勝利は間違いなし。

さらに、インサイドの中心である本塾のボセイドン黒木亮。昨年からはインサイド陣の中心としてチームのゴール下を守っていた彼は、今年さらにインサイドを始め高確率のペリメーター・スリーポイントに付けて、さらなる成長を遂げている。彼の圧倒的な存在感が、ゲームを支配する。4年生としての自覚も持ち、下級生を引っ張る彼の活躍に目が離せない。

チームNo.1の美声を持つ、本塾のインハビタント中島一樹。3年間鍛え上げ

そして、急成長を遂げた本塾のラヴァー・ゴールム山崎哲だ。六大学戦を皮切りにスタメンの座を欲しいがままにし、未だ成長が留まることを知らない彼を止める術はない。長年の努力の未培われた圧倒的なフィジカルで相手を弾き飛ばし、ゴール下・リバウンドを蹂躪する。成長株が、ついに大器晩成した姿を多くご覧あれ。

本塾のスピードスター真木達は、持ち前の圧倒的なディフェンス力からスティールを量産する。彼のスッポンドイフェンスによって、早稲田のエースは完全に封じ込めてしまおう。また、オフエンス面でも神速のドライブでコートを切り裂き、得点を荒稼ぎする。3年前の慶早戦のような爆発的な得点力を、今年も見せてくれるだろう。

チームをプレー面・行動面で引っ張る本塾のパーティーパー・桑原竜馬は、9mスリーポイントに身につけコートのどこからでも3Pを沈める。また、チームの中心人物として下級生などを叱咤し、チームの雰囲気を引き締める。彼のコート内外での活躍が、慶早戦の勝利を引き寄せる。

チームNo.1の美声を持つ、本塾のインハビタント中島一樹。3年間鍛え上げ

最後は、本塾のゴッドサン清家智。一貫校出身の彼のメガボイスとガッツ溢れるリバウンドは、チームを鼓舞する。チームNo.1のユーモアを持つ彼のギャグは、見るものすべてを笑いの坩堝へといざなう。時空をもえぐりとするようなシュートフォームで、勝利をえぐり取る。

上級生となり更なる成長が期待される3年生。そこで、もう愛称ともなった本塾のスプラッシュブラザーズを紹介しよう。まずは、本塾の次世代エース西戸良だ。持ち前の身体能力をいかしたディフェンス・ドライブは、チームNo.1との呼び声も高い。彼のマークマンが、アンクルブレイクされることは間違いないだろう。2年間での経験が彼に得点力を身に付けさせ、ディフェンス面だけでなく得点面でも更なる期待がかかる。上級生としての自覚が、彼をさらなる高みへと導く。

そして、もう1人は本塾のGTOこと後藤宏太。天性のセンスとたゆまぬ努力で培ったシュート力は、自他ともに認めるチームNo.1だ。シューターとして

チームNo.1の美声を持つ、本塾のインハビタント中島一樹。3年間鍛え上げ

飛躍する戦力

シュートを決めるのはもちろん、今年はゲームメイクの役割も果たす重役を担う。ハイテンポな展開を作り出す攻撃的なガードとして、本塾に新たな風を巻き起こす。チームの中の信頼も厚く、彼の活躍に期待がかかる。

加えて一貫校出身の2人を紹介しよう。1人目は、本塾のスマッシュブラザーズ藤井和朗だ。持ち前の身体能力を活かし、常に速攻の先頭を走りゴール付近のシュートをことごとく沈める。フィジカル面で大きく成長し、そのおかげによって安定したペリメーター・スリーポイントシュートを身に付けた。

もう1人は、本塾のキラーマシン松岡祐介。シュート力に定評のある彼は、もくもくとシュートを打ち続ける。他人に左右されず自分を貫く姿は、まさに仕事人。

上級生としての自覚が芽生えた個性あふれる3年生の活躍にチームの命運がかかる。

次世代を担う者たち

昨年の経験を経て、チームの中心になりつつある2年生ビッグ3を紹介しよう。まず1人目は、本塾の元気印トカチヨフ・サワ。去年慶早戦での彼のリバウンド・ルーズボールなどの、



13 西戸良(3年生)

ハッスルプレーは記憶に新しいだろう。パワフルなゴール下を始め高いシュート力を引っさげ、今年から3番にコンバートされた彼のプレーに目が離せない。

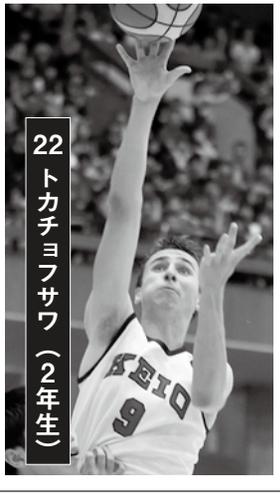
2人目は、本塾の京都タワー木村能生だ。弱点だったフィジカル面を克服した彼は、昨年の試合経験も経て今年さらに試合に絡んでくるだろう。ダンクやゴール下だけではなく、高確率のスリーポイントでチームに勢いをもたらす。

3人目は、本塾のデニスロッドマン堂本阿斗だ。アメリカ力譲りのフィジカルでオフエンスリバウンドを欲しいがままにする。幼稚舎から叩き上げられた彼のルーズボールなど、泥臭いプレーをうご期待。

さらに、長い航海を経てバスケット部に返り咲いたU-18エンデバーの高橋晃史郎や、鍛え上げられた体から放たれるシュートは百発百中の原義裕。チームNo.1の低身長だからこそなせるクイックネスが持ち味の加藤舜王、チームNo.1の体力でコートを縦横無尽に走り回る大村航生など、国際色豊かな顔ぶれがチームの勢いを加速させる。

新進気鋭のルーキー

最後に4月に入学式を迎えたばかりの本塾の新しい仲間を紹介しよう。様々な



22 トカチヨフサワ(2年生)

バックグラウンドを持ちながら経験などが異なる彼らだが、これからの活躍に期待がかかる。その中でも、特に期待されている新入生三銃士を紹介しよう。

1人目は、鳴り物入り期待の新星鳥羽陽介だ。インターハイ優勝校キャプテンという肩書きを引っさげバスケットの門を叩いた。彼の鍛え抜かれたファンダメンタルから繰り広げられるディフェンスは、即戦力だ。彼が、本塾のラストピースとなることだろう。

2人目は、高知からやってきたニューフェイス澤近智也だ。出身高校はバスケットでは有名ではないが、高知国体メンバーとして全国を経験している彼の活躍に期待。細身な体に詰まったパワーを存分に生かし、リバウンド・ドライブなど得点力に期待がかかる。

最後の1人は、大阪出身の原匠だ。小柄ながらもスビードとパスセンスを武器に大阪国体メンバーに選出され、アップテンポなゲームを展開させる。彼ら一年生トリオが新風を巻き起こし、チーム全体にいい勢いを与えてくれるだろう。

全員バスケットで、代々木でふたたび丘の上！陸の王者完全復活へ！絶対に負けられない戦いがここにある！

猛攻堅守

昨年本塾は、チームスローガン「Focus on this moment」の下、3部復帰を目指して精力的に日々の練習に取り組んだ。秋のリーグ戦では惜しくもグループ二位となり、入れ替え戦にコマを進めることができず、4部残留という悔しい結果であった。

しかし、今年こそ3部昇格を果たすため、新たなスローガン「邁進」を掲げ、身体作りから見直す地道なトレーニングを積み重ね、チーム全体の走力の底上げを図っている。

本塾が目指す「走るバスケット」を体現し、チーム一丸となって戦う姿をとくとご覧あれ！

チームの要

それではここから、今年チームを牽引する4年生を紹介しよう。

本塾の頼れる主将#4虎岩里佳。得意のジャンプシュートと軽快なフットワークで、攻守において要になること間違いなし。常にチームメイト全員に気を配り、鼓舞する彼女の姿に皆コート内外で絶対的な信頼を寄せる。昨シーズンは怪我で悔しい思いをした彼女のバスケットに対する熱い思いが、慶早戦で爆発する！副将である#5酒井亜弥。熱いハートを持つ彼女は、ずば抜けた脚力で速攻の先頭を走り抜き、速い試合展開の中



4 虎岩里佳 主将(4年生)



5 酒井亜弥 副将(4年生)

でもチームを引っ張る。持ち前の鋭いカットインは、チームの重要な得点源である。勝利に対する強い思いは、メンタル面においてもチームを奮い立たせ、どんな相手にも怯むことなく立ち向かう姿は必見である。

クールで冷静沈着な#6遠藤真央香。卓越したボールハンドリングによって繰り出されるキレのあるドライブ、素早いモーションから放たれる3Pと、ディフェンスの守る幅を広げる武器を併せ持つ。ここ一本、得点が欲しいところ、得点して欲しいところ、チームのポイントゲッターである彼女の活躍に期待。

驚異の脚力の持ち主#7周東彩葉。ボールに対する鋭い嗅覚は人一倍で、相手の足元に入り込みミスを誘う激しいプレッシャーディフェンスと、ボールを必死に追う姿は勇猛果敢である。ディフェンスを出し抜く素早いドリブル、インターセプトからの速攻と彼女のプレーは見どころ満載だ！

今年から学生コーチを務める野尻友里香は、豊富な知識と群を抜く頭脳を持ち主だ。コートの中では船と鞭を使い分け、人一倍チームの成長を切望している。選手に一番近い指導者であり、誰よりも熱い気持ちを持った彼女に、チーム全員絶対的な信頼

を寄せている。本塾に癒しをもたらす天使、吉次 真秀子。今年主務を務める彼女は、愛嬌ある笑顔を抑えやすことなく、選手全体のケアから部の実務まで仕事をテキパキこなす。そんな彼女の姿に、選手一同心底惚れ込んでいる。

多様性

チームの大黒柱、#8中村実里。安定した3Pと豊富なシュートバリエーションから繰り出されるシュートは、チームの欠かせない得点源となっている。エースとしてチームを引っ張る、彼女の洗練されたしなやかなプレーから目が離せない！

チームのムードメーカー#9石原早織。センターとしては小さいながらも、誰よりも走り、そして跳ぶ。彼女の高い身体能力から生まれるリバウンドは、身長差をものともしない。ゴール下で繰り出す華麗なフックシュートは、ディフェンスの意表を突き、本塾に得点をもたらしてくれるだろう。

個性派山ガール#10清水麻子。インサイドのプレーだけでなく、高校時代にフォワードだった経験を活かし、外角からのシュートでディフェンスを翻弄する。穏やかな性格の彼女だが、得点に対する執着は人一倍強く、常に虎視眈々とゴールを狙っている。

初の慶早戦に挑む、#11坂淑恵。今シーズンからの入部となった彼女だが、高い身長を活かしたセンタープレーは高さの無いチームの重

要な戦力となっている。普段はおっとりとした彼女が見せる力強いプレーに、目を見張るだろう。

センス光る頭脳派コーチ瀧本有加。女子高の指導も兼任する彼女は、多忙な日々を送る中、自身が選手であった経験からチームメイトに親身での確実アドバイスや指示を出し、チームにとってなくてはならない存在である。

その独特なキャラからチーム全員に愛されている#12光田美波は、高い精度を誇るシュートと強靱な体で攻守においてチームに必要な存在である。膝の怪我と闘いながらも大好きなバスケットに真摯に向き合い、努力を重ねている。

チーム1おっとり系女子#13亀田葉月。そのかわいらしい顔からは想像できないガッツあるプレーで、本塾に得点をもたらす。最大の武器ともいえる足の速さを活かして、インターセプトを狙い、得点につなげる。

生粋の塾生#14村井睦。長年慶早戦を観客席から見ている彼女だが、選手としてコートに立つのは初めてである。彼女の持ち味である広い視野から、味方を活かす華麗なアシストパスは見応え抜群だ！

今年のチームは人数も増え、高さのある選手も加わり、一味違うチームとなっている。一人一人がどのチームにも負けない、バスケットに対する熱い情熱をもっている。格上の相手に対し、怯むことなく立ち向かう姿は観客を魅了すること間違いなし！

強豪早稲田相手に、これまで積み重ねてきた本塾ならではの堅実なバスケットがどこまで通用するのか、チャレンジャーとして挑む選手たちの勇姿をどうか見届けてほしい。

——権田さんは、平久江さんの2年の先輩ということですが、当時の思い出などはありますか？

権田 そうですね、もう30年以上も前になります。私が1年生の時に負けて2年生・3年生・4年生で勝たせてもらったので、平久江さんが1年生・2年生の時は勝たせてもらいました。

平久江 そうですね。

権田 2年生の頃は、よく試合に出ていましたね？

平久江 はい。

権田 結構強い選手でしたね、まあ私はもっと渋かったのですが(笑)。Hコーチが変わって2番から1番にポジションが変わったりして、大変な時期でしたね。

平久江 当時のHコーチは誰でしたっけ？

権田 畑 龍雄先生(故人)ですね。

平久江 ああ畑先生、コートにボールを置くフォーメーションのですね？

権田 よくわからなくて、難しかったですね。

平久江 あれは難しいですよ、武蔵高校で長らくコーチを務めた有名な方ですね。

阪口 トラベリング等のバイオレーションなど、日本協会ではルールブックを整備もされた方です。

平久江 あと当時、慶應はあまり選手がいなかったですね？

権田 そうですね、伊藤 誠とかの代で、少なかったです。もうあとは、記憶が飛んでしまって(笑)。

——今度は監督として30年越しの戦いになります



慶應義塾大学
阪口 裕昭 H・コーチ

が、どのような思いをお持ちですか？

権田 我々は、慶早戦という呼び方をしますが、やはり「絶対に負けられない戦いだ！」と思っていますし、早稲田は永遠のライバルだと思っています。去年は勝てたのですが、その前の3年間は負けているので、そういう意味ではいま早稲田は2部にいますけど、全く有利だとは思っていないので。とにかく勝たなければならない。春は慶早戦勝利を目指して、これから阪口と鍛えていこうと思います。

平久江 早稲田にとっても同じで、今シーズンの目標としては1部復帰なのですが、それは秋なので、目の前の春ではやはり早慶戦に勝つことです。しかも去年は負けていますし、なおかつ慶應は1部なので、全ての面で胸を借りるつもりとか、チャレンジの気持ちで今年はぶつかっていききたいなど。そして、なんとしても勝利したいと思っています。

——六大学リーグの4試合終了時点での感想は？

阪口 何と申し上げればよいかわからないのですが、まあ「よくみんな一生懸命やっているな」と、そういう感じです。この六大学は、まあ練習試合みたいなものだから、慶早戦本番は「1部も2部も関係ない、本当に何が起こるかかわからない戦い」になると思うので、万全の態勢を敷いて臨みます。

吉岡 早稲田は、今年スタッフ・コーチ陣が変わって、この六大学ではチームとしていろいろと試していこうと。普段出ている選手も出ていない選手も、「一緒にチームとしてやってきたことをやろう」という形でやっているの、それほど勝敗にはこだわらず内容にこだわっています。今日の立教戦は、いい形がたくさん出たかなと思っています。

——お互いのチームの印象は？

権田 早稲田は、個々人の能力がものすごく高く、「とにかく速い」という印象です。あのスピードにどれだけ慶應のディフェンスがついていけるか？やはり慶應は、そんなに得点がものすごく入るわけではないので、そういう意味ではスピードにどうついていくか、能力が高い選手にどう対応するかが大事だと思います。

平久江 慶應は、バスケのスタイルだけではなく、あらゆる部のシステムが伝統を引き継いで今に至っていて、ある意味羨ましいなど。今年ベンチに入って色々学生と話していても随分昔と変わっていますが、まあ良いところ悪いところ両方あると思うのですが、そういった目で見ると慶應は、伝統を守ってコート上でも普段の生活でもあらゆるものに一本筋が通っているという感じがします。そういう意味では、立派なチームだなという印象を受けます。バスケスタイルとしては、「しっかりじっくりミスなく、そして最後には勝ってしまう」というような、どこをやってもいつも接戦になるような、自分たちのスタイルを貫き通すという印象があります。早稲田の場合は、どちらかというと適当とか、走ってというのが中心になるのでちょっとムラがあって、その部分が違うのかなと思います。

阪口 さっき吉岡さんが言ったように多くの選手が出てきたので、どう機能するのだろうか？と思いました。收拾がつくのだろうか(笑)。6月6日には、「どうなって出てくるのだろうか？」なっている、そんな印象です。

吉岡 慶應は、去年のチームよりも体が一回り大きくなったという印象があります。背の高い選手が多く出てきて、うちは背がそんなに高くないので、そこは早稲田にとって脅威だだと思います。個々の能力でも早稲田より守備の上手い選手や、速い選手が多くいると思うので、そういう中で「早稲田がいかに自分達のバスケを出せるか」が、鍵を握っていると思っています。

——今期のチーム作りの方針は？

阪口 まだ練習はほとんどしていないので、なんと言ったらいいかわからないのですが、やはり「学生がしっかり考える」という、そういうチーム作りをいまやっています。そこ大人が考える部分の役割分担の違いみたいなのが、今年は課題かなと思っています。去年は、「自分たちで考える習慣」が一昨年まではあまりなかった事と、自分たちで考えてやるために大人がやらなければいけない部分もあったの



早稲田大学
平久江 卓監督

で、その振れ幅が大きくなってしまった。そこをいいところにもっていけたらなど、今年は思っています。今年はその点では、早稲田も大変かなと(笑)。

平久江 あくまでも学生が、コートでパフォーマンスを発揮することが中心なので、昨年と今年と体制が変わって、「いかに学生が戸惑わないようにするか」を考えています。学生とのコミュニケーションを重要視しているのと、やはり上手い・下手、試合に出る・出ないに関係なく4年生がしっかりとしたチームを作って、「一つのことを考えながらやる大人なチームにしたい」というのが今年の方針です。プレイスタイルは、まだこれからやりながら決まっていくことだと思うのですが、チームの考え方としてはそういった方針にしたいと思っています。

——昨年の早慶戦を振り返ってみていかがだったでしょうか？

権田 ディフェンスを粘り強くしっかりやって、早稲田の今年キャプテンの池田 慶次郎をとにかくみんなで抑えて、ポイントになる選手をみんなでカバーするところがすごく印象に残っています。

阪口 昨年の伊藤たちは4年間で初めて早稲田に勝って、そのあと夏に諏訪に合宿に行ったら、バスケットボール部のOBではない先輩方にも、「慶早戦勝利おめでとう！」って異様にいろんな人たちに言われ、「こうなるのだ」と初めて学生が理解できた。単純に試合やって勝ったり負けたりではなくて、早

稲田のOBも慶應のOBも全国の人たちが、「バスケット部が来るとなると慶早戦はどうだったのか?」と思ってきている。そこで入り乱れて祝福してくれるというのが感じられて、「よかった」という印象がすごくありました。試合自体は、ホームコートアドバンテージがあって、色々なものを感じながら本当に楽しくでき、観客・学生も2千人、3千人集まってくれるのは、「本当に恵まれているな」とつくづく思いました。

吉岡 私は昨年4年生として早慶戦に参加したのですが、私が1年生・2年生・3年生の時は、BチームもAチームも全勝でした。で、自分たちの代になってBチームもAチームも負けというある意味情けない結果となってしまい、なかなか上手いかなかったです。去年は、初めて会場が日吉だったので、慶應の学生がすごく多かった。私たちはそれにビックリで、「やっぱりホームコートだな」とすごく感じ、まずそれに圧倒されて試合という雰囲気より何かのイベントのような雰囲気でした。私たちが考えていたゲームプランが最初からドタバタしてしまい、ずっと慶應にペースを握られたまま「もう気付いたら試合が終わっていた」という感じでした。なので、今年は自分たちのバスケットをすることを一番にし、「慶應がどういうバスケットをするか」というのもあると思うのですが、自分たちのスタイルを出していきたいと思います。

——早慶戦で中心となる選手は?

阪口 みんなですね。早稲田は、あんまり変わらないと思いますけど。今年は、みんなでやるんじゃないですかね。

権田 今日は、山崎が初めてあんなすごいプレーをしているところを見たのですが、ああいうプレーが継続してできるようになれば相当な戦力になると思います。みんな驚いていました。

平久江 誰ということではなくて全員が中心となって欲しいですし、やはりその中でも4年生がどれだけチームを引っ張っていけるかというのが、勝ちにつながるかなと思います。

吉岡 私も平久江さんと同じ考えで、今年は練習も普段コーチ陣が全員集まることがなかなかできなくて、4年生を中心に練習も生活もやっていこうと言っているので、4年生がどれだけ早慶戦に懸ける思いを表現できるかが鍵になってくるかと思います。

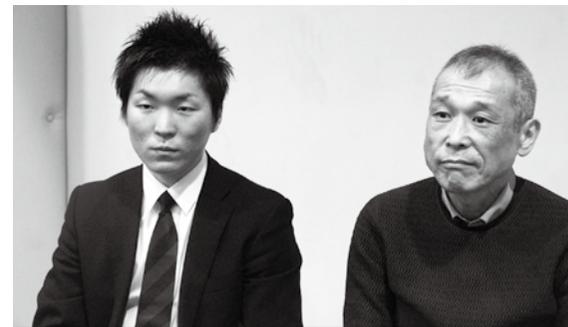
——相手のチームで警戒すべき選手は?

阪口 慶早戦は特別な雰囲気になるので、それでしょうね、敵は。選手を警戒するのは戦術的にやりますが、雰囲気に飲まれないようにする。今年は代々木なので、余計にそこでしょう。人というより学校というか、そんな感じです。

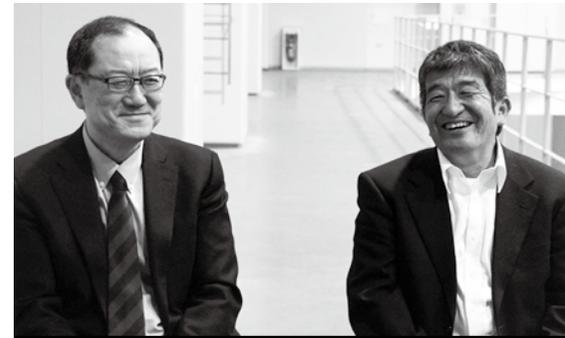
権田 慶早戦は独特な雰囲気なので、「そんなに頑張るな」と言ってもアドレナリン出っぱなしで、それをどうやって抑えて「冷静に自分たちのプレーをやるか」というところが一番難しいので、最大の敵は自分たちです。私も学生時代に慶早戦で、「いつもならないかところに手が出てしまって」ファウルで途中ベンチに下がった経験があります。それを、どうやって選手たちが自分たちで抑えるかがポイントだと思います。

平久江 一人が誰かということではなくてチーム対チーム、慶應カラーと早稲田カラーの激突という感じなので、そのまとまりとか勝とうとする思いが強い方が、最後は勝利するのではないかと思います。

吉岡 雰囲気に飲まれない。そういう雰囲気にはいかに対峙できるかというのが一番かなと思います。慶應は早慶戦ではベンチから出てきた選手がすごく活



早稲田大学
吉岡 修平A・コーチ 平久江 卓監督



慶應義塾大学
権田 哲也監督 阪口 裕昭H・コーチ

躍するというイメージがあって、そういう選手をチェックしないといけないと思いますし、早稲田もそういう選手が出てきて欲しいなと思います。

——早慶戦で注目して欲しいポイントは?

阪口 実は私も指揮をとったのは去年が初めてで、勝つことに必死で。そして、勝った途端にコートに選手がなだれ込んで、審判も困ってしまったという状況でした。早稲田は、3年間そういうところも意識していたと聞いて、「試合に勝って、勝負に負けたな」と言って早稲田側に謝りの連絡を入れました。

今年は、当然勝って格好良く終わりたい。そういうところを見て欲しいと思います。去年は、勝つことに必死でそのまま行ってしまい、恥ずかしい思いをしたので。早稲田がそういうことを考えていたというのを聞いたものですから、結構みんなショックでした。

権田 一生懸命選手たちがやっているの、一生懸命やっている姿から何か感じてもらえるような頑張りをみんなが見せてくれるはずなので、その姿を見て頂けたらなと思います。

平久江 学生たちはお互い必死に一生懸命やっているの、その姿を見てもらって一人でも多くの人が感動してくれればいいなと思います。

吉岡 選手が一つの目標に向かってチームとして頑張る姿を見て、感動してくれればなと思います。

——早慶戦に向けて意気込みをお願いします

阪口 勝つことだけです。

権田 一緒です。

平久江 勝ちたいです。

吉岡 去年負けているので、勝ちたいです。

—今日はシーズン初の対外試合となりましたが、試合を振り返っていかがですか？

福元 早稲田は、「とても速い攻撃を仕掛けてくるバスケット」が印象だったので、それにどれだけついていけるかが、慶早戦の勝利の鍵になってくると思いました。

池田 慶應は、外からのシュートの精度が高く、なおかつリバウンドが強かったと感じたので、早慶戦ではリバウンドの強化をしっかりして戦えたら、と思いました。

—それぞれのチームでは、春休みの練習においてどのような取り組みをしていますか？

福元 私たち慶應は、練習を始めて3日目なので「まだまだシーズンに入って」という話ができないのですが、それでも昨年と同様、負けないようにであったり、慶應らしさであったり、というようなチームとしての目標はあります。

池田 早稲田は、スタッフが入れ替わったので、その部分のコミュニケーションを大事にしています。練習のメニュー自体は、1対1・2対2・3対3・4対4まではやっているのですが、システム自体が変わったのでスタッフ間、選手間のコミュニケーションというのを、重要視して取り組んできました。

—先ほど少し触れられていたのですが、新チームになって変わったことは何かありますか？

福元 私たちはスタッフの構成が少し変わってはいるのですが、基本的に目指すバスケットというのは変わらないのでそこまで変化はないかな、と思います。

池田 早稲田は、スタッフの入れ替わりによってバスケットが少し変わったというのがあるのですが、まだ明確に確立しておらず、私たち選手とスタッフで模索中という段階です。変わったといえば変わったのですが、これからという感じですね。

—新チームになって新しく1年生が入ってきたと思うのですが、雰囲気はいかがですか？

福元 慶應は、現時点(3月中旬)まだ新生が入部していないのですが、基本的に1年生であれ4年生



早稲田大学

池田 慶次郎

慶應義塾大学

福元 直人

であれ垣根のようなものは無くして、常にフラットな状態を私自身含め皆望んでいます。いつ入部してきても、学年関係なくバスケットができる環境づくりはできているかな?とは思っています。

池田 早稲田は、1年生が入部して1週間くらい経つのですが、1週間で非常に距離が近くなりました。最初は、1年生自身が遠慮している姿が見受けられたのですが、日を重ねるごとに積極性が生まれてきていると感じます。私生活においては、寮生の選手が多いのでその仲が深まっており、寮生じゃない選手たちも身近な先輩がいることで、そういった面でチームとして仲良くなっています。

—昨シーズンを振り返っていかがですか？

福元 慶應は、チームとしての最低限の目標を達成できたと思っています。その要因として、堅守速攻が毎試合対応できていたということだと感じています。そこはすごく確立できた部分であり、自信になった部分でもあります。ですから競った試合で、「どれだけ自分たちの力を出し切ることができるか?」に重きを置いてやっていました。

池田 早稲田は、関東大学リーグ1部復帰を目標に掲げてやってきたのですが、入れ替え戦にも出場することができず、結果だけを見ると非常に悔しい1年間でした。ですが、4年生を中心に元気のあるチームでしたし、チームとして結果は出なかったけれど4年生の意志というのを、私たち後輩が受け継いでいるので、今年こそはしっかり体現していきたいと思っています。

—今季のプレースタイルはどういったものですか？

福元 慶應は、パッシングとかドリブルを少なくしていこうと思っています。昨年の流れで強固なディフェンスを組むことが大事で、そこからリバウンドをとって少ないパス、短い時間でシュートにまで持っていこう、ということに重点を置いています。

池田 早稲田は、まだ模索中ではあるのですが、速攻とゆっくりやる、といったオフェンスの中の緩急を大事にしていこうと思っています。常に速い攻撃ではなくて狙える時に速くして、ゆっくり攻めるときはゆっくり攻めて、というのがオフェンスとしてのスタイルです。ディフェンスは、システムが変わったというか1人1人、1対1でやられないようにするというのが根底の部分にあります。

—お互いのプレーの印象とは？

福元 池田は、得点力がすごくあり、空いているとすぐ決められてしまう。かといって詰めるとドライブして、周りの選手を活かされてしまうと思っています。どちらにしてもキープレイヤーなので、慶早戦では要注意でいきたいと思っています(笑)。

池田 福元は、常に落ち着いていて、私とは対照的に

スピードは使ってこないのですが緩急の使い方がすごく上手くてテクニシャンかなと思います(笑)。ロッカーモーションとかでやられる部分があるので、本当にテクニシャンという感じですね。

—オフの日はどんな風に過ごしますか？

福元 定番ですけど「カフェで本を読む」ですかね(笑)。

池田 それ、あんまかっつつかないからね(笑)。

福元 えっと、じゃあバスケット部に限らず色々な友達と話したりして、あえてバスケットから離れています。

池田 自分は、最近は就職活動です。日頃は練習があるので、その分オフでやらないと厳しいので。

福元 いや、私も遊んでいるみたいになっていますけど就活もしていますよ(笑)。

—お互いの学校で仲のいい選手の方はいますか？

福元 慶次郎もそうですし、高校時代から対戦してきた選手が多いので、そういう意味で仲良いというか顔見知りですときている感じです。

池田 そうそう。会場で会ったら、「よっ」って挨拶する感じ(笑)。

—昨年の早慶戦を振り返っていかがですか？

福元 いやもう、嬉しいしかない感じでした(笑)。私も入学して初めてだったし、やっと勝てたなど。まあただ勝ったと同時に、「来年やばいな」とは思っていました。勝たなきゃな、と。

池田 私は、言葉にできないくらい悔しくて、しかもホームはせこいなって(笑)。

福元 まあね(笑)。



池田 なんだよ、これって(笑)。でも今年は代々木でできるので、とにかく負けたくないなと思っています。また、昨年の早慶戦は自分が調子悪くチームの足を引っ張ってしまったかと思っていて、負けた時点からずっと今年の早慶戦の事は意識しているので、何が何でも勝ちにいきます。

——勝ちに行くにあたり、自分のチームでキーマンになる選手は誰でしょうか？

福元 個人的に言えば、大元ですね。彼は、間違いなく外せないです。あと、私たち4年生全員が間違いなくキーパーソンになると思うので、どれだけ明確な目標と意思とあと覚悟を持って臨めるかが、勝負になると思います。

池田 早稲田は今年、AチームとBチームというのをなくしたので、そういった意味でも選手一人一人がキープレイヤーというか、重要になってくると思います。試合に出ているメンバーはもちろんのこと、出られていない選手も何かしらで貢献できるようにと日々考えているので、全員でバスケをするということが重要になってくるかと考えています。その中でも、名前を挙げるとしたら、早稲田は身長がない分センターにすごく期待していて、特に今年一年での宮脇の成長というのは必要不可欠だと思うので、彼の伸

びに期待しています。

——相手チームで警戒している選手は？

福元 こいつです(笑)。慶次郎です、間違いなく。ゲームコントロールする立場でもありますし、チームの柱でもあるので。あと、過去3年間見ても、彼の活躍で勝敗が決まってしまうので警戒していきたいです。

——では、福元選手にとって三年間警戒している選手は池田選手ということでしょうか？

福元 そうですね。1・2年の時は、先輩もいる中でのびのびとプレーしていて、3年になってそこに責任感が加わった気がします。で、4年目は本当に注意しなきゃなと(笑)。

池田 慶應に限っては、去年は本当に4年生の力が強く、今年もそういうチームを作ってくるのだろうなところから、4年生全員がキープレイヤーかなと思っています。特に大元・黒木・福元の三名は経験を積んできているので、早慶戦では注意しなくてはいけないし、注意してもやられるくらいですごいプレーヤーだと思っています。

——早慶戦に向けてどんな対策をとっていきたいですか？

福元 慶次郎を、おそらく0点に抑えるとかそういう

都合のいいことは無理だと思うので、どれだけ要所で抑えて私たちが流れに乗れるかっていうのが大切だと思います。これから厳密に対策を練り上げていきたいです。

池田 3年間やってきて、慶應のチームカラーというのも分かっているし、個人のプレーの特徴もつかめていると思うので、4年生中心にそういうところを、また1年生を含めたチーム全体に共有するようにしていきたいです。

——早慶戦のここに注目してほしいってところがありますか？

福元 まあ同じだとは思いますが、慶應はやはり勝ちたいという気持ちしかないで、その勝利に向かってお互いのチームの色が出ると思います。あと、早慶戦という独特の雰囲気、私たちがやっていて楽しいし、観客の皆さんも盛り上がると思うので一緒にその場を作ってくれればと思います。

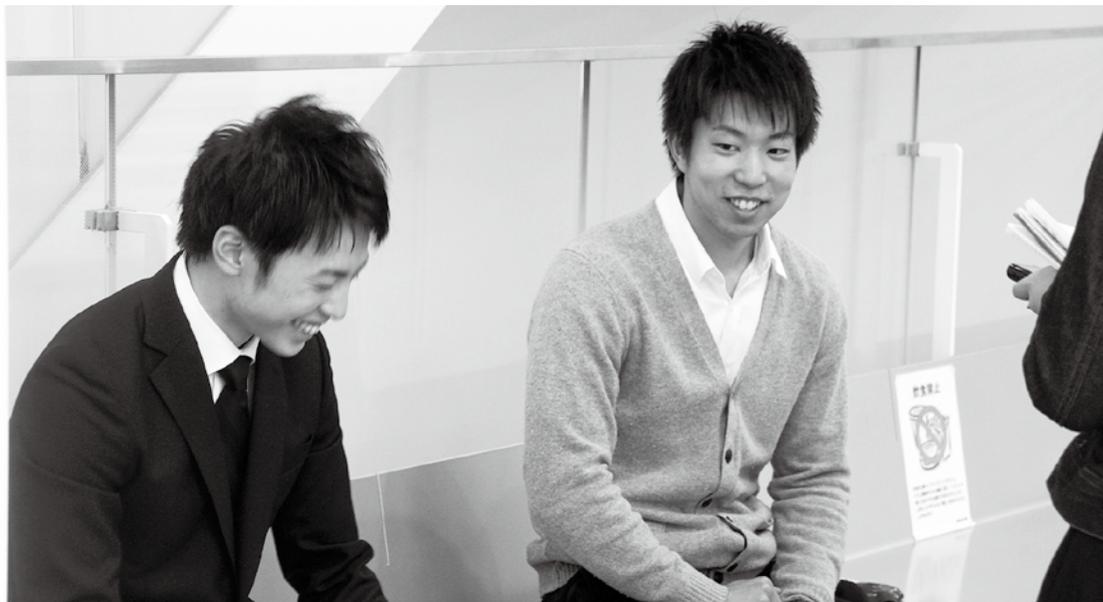
池田 早稲田も同じで勝ちたいという気持ちが強く、更に去年の負けが自分たちの勝ちたいという気持ち

をより強くしているので、本当に気合の入ったチームになっていると思います。

——お二人にとっての早慶戦とはなんですか？

福元 4年目になって、昨年よりもっと早慶戦に懸ける気持ちっていうのが強くなりましたし、春シーズンの1勝分ではないのですが、その1勝が春シーズン、更に1年の全てであると思っているので、貴重だしすごく楽しみです。

池田 自分もすごく楽しみな試合ではあるのですが、年を重ねるごとに早慶戦の捉え方とかプレーの仕方が変わってきているので、さっき福元も言っていたのですが、3年になってすごく責任を感じるようになって、今年は主将として早慶戦を絶対に勝ちたいという思いがあります。そういった意味での責任に、自分が負けないようにしっかり準備していきたいです。早慶で誰よりも早慶戦を大事にする気持ちが、自分は強いと思っているので、絶対に負けたくないという気持ちがあり、そういった意味で気合の入る試合です。





——六大学リーグ戦（3月21日時点）を振り返って

大元 思ったより勝ち星を挙げられているという印象です。3日前までアメリカにいて練習もしておらず、みんな不安がある中でこういった成績を残していることに対して、正直驚きの方が大きいです。

黒木 結果どうこうというよりは、中身を大事にしていました。チームでアメリカ研修に行っていたため2日間しか練習できていない中で、「結果より中身にこだわっていこう」という方向性があったので、そういった中身の部分は意識できているのかなと思います。

木澤 六大学に向けての目標というのは特に決まっておらず、現時点での力を試すということを重要視していました。昨日は2連敗してしまって、チームとしてできている部分があればできていない部分も見えましたが、今日の立教戦では自分たちが一か月やってきたことが出せたので、勝利を収めることができたのかなと思います。

山本 ケガで全く試合に出ていないのですが、新し

いコーチの下で「どういう風にバスケットができているのかな？」という感じで見ていました。今日の立教戦の感じでは、ちゃんとできているという印象でした。

——去年一年間を振り返って

大元 ヘッドコーチが代わって1年目ということで戸惑いという部分が大きくあった中で、六大学を優勝し波に乗れるのではないかと考えていた矢先にトーナメントが15位という結果で、上手くいかない部分が多かったです。そうした課題にチームとしてずっと取り組んでいたのですが、最終的に自分たちの目指していたオールジャパン出場等、目標を達成できました。今年は、「それ以上の目標を達成しなければならない」というプレッシャーはあります。

黒木 言いたいこと全部言われちゃったのですが（笑）。最初、新体制に変わって選手一人一人の中では戸惑いというものがあったと思います。苦しい時期もあったのですが、その中でうまく具合に最終的には1部に残留できたり、オールジャパンに出場することができたりというのは、やっぱりチームにとっ

ては大きな収穫だったんじゃないかなと思います。

木澤 2年前に早稲田は2部に落ちてしまって、すごく悔しくて…。昨年の目標は1部昇格で、春のシーズンはトーナメント5位とよかったです。秋のシーズンはリーグ戦4位という入れ替え戦も行けずインカレにも出られないという、2年前よりも更に悔しい結果に終わってしまいました。今年は、監督もスタッフ陣もガラッと変わりまだわからない部分もありますが、目標の1部昇格に向けて「絶対今年こそは！」という思いがあるので、それに向けて頑張っています。

山本 全部木澤がしゃべっちゃったので…（笑）。本当に木澤が言った通りです。

——お互いのチーム、選手の印象は？

大元 早稲田は、一人一人が上手いという印象がありますね。2年前だったら河上さんっていう絶対的なエースがいたのですが、昨年と今年のチームを見てみると、一人一人が全員上手く、「誰が出て同じバスケットができる」という印象を受けています。

黒木 私が下級生の頃の早稲田の印象は、結構タレント軍団という感じで本当に穴が無いなという感じがしました。今も一人一人が忠実というか、「走るしやることをしっかりやる」という印象がありますね。

木澤 慶應は、2年前やもちろん昨年もそうでしたが「外がよく入るな」という印象で、速攻のときにレイアップに行かずスリーを狙う大元だったり、あと昨年は伊藤さんや福元がいて、そこにはちゃんと対応していかないといけないと思います。今年は昨日試合したのですが、外もあれば黒木のようにインサイドプレイをしっかりとやってくる選手もいるので、そこも抑えていかないと勝てないなという印象です。

山本 昨日私は出ていませんが、試合を見ていた限りでは外が大元とかかめちゃくちゃ入って、フィジカルが強い選手もいっぱいいるなという印象でした。

——早慶戦とは？

大元 私たちは昨年勝つまで3年間負けていたので、勝ちたいという気持ちの方が強かったのですが、一回勝ちを経験してみて、慶早戦は何か他の試合では



早稲田大学

木澤 義椰

言い表せないような「魂を押し出さないと勝てないのだ！」というのを実感しました。そういう意味でもあの一試合に懸ける思いには、「言葉では言い表せないようなもの」があると思います。一言で言うと「魂」ですね。

黒木 私は一言で表すと、「流れ」ですね。ワンプレイ、ワンプレイで流れが変わってしまう、流れで勝敗が決まるといっても過言ではない気がしています。

木澤 早慶戦は本当に一発勝負で、どちらかが勝ってどちらかが負ける。そういう意味では「意地の張り合い」ですね。

山本 木澤と同じです

——早慶戦のキーマンは？

黒木 私は、2年生になるトカチョフ・サワと木村だと思いますね。2人のインサイドプレイヤーがキーマンになると思っていて、一番伸び代がある2人なんじゃないかなと思っています。その2人がどういう活躍してくれるかで、チームの流れも変わってくるんじゃないかなと思っています。

大元 私は4年生だと思っていて、昨年早稲田は4年生が1人も出ていない状況で慶早戦を戦ったと思うのですが、そういう部分で4年生の気持ちが大きく試合の流れを変えようと思っています。昨年なんかも慶應は、伊藤さんがチームを全力で引っ張りまし

たし、4年生の勝ちたいという思いが強い方が最終的には勝つんじゃないかなと思っています。

木澤 私も大元と一緒に4年生です。チームを作るに当たっても、4年生がしっかりしてリーダーシップを取らないとチームは成り立たないと思っていて、新しい監督の財前さんにもミーティングで「4年がしっかりしていかないと後輩もついて行かない」と何度も言われています。4年生でいろいろ話し合いながらチームを引っ張って行こうという風に決めたので、そう考えると試合に出ていると出ていなくてもベンチから声を出すということなども必要ですし、キーマンは4年生だと思っています。

山本 私は逆に下級生だと思っていて、下級生がどれだけ4年生についてきてくれるかという部分で下級生が大事になってくるのではないかと思います。

——印象に残っている早慶戦はありますか？

黒木 昨年勝ったのはすごく嬉しかったのですが、私個人としては1年生の時で、やっぱり一番最初の慶早戦です。すごいなっていう印象があって、観客の歓声だったりチームの盛り上がりだったりとか、初めてそれを体感したときはびっくりしました。

大元 私は昨年の慶早戦で、ホームコートで初勝利できたというのが大きいです。慶應開催だったので、「意地でも」という気持ちがあって、それが結果、勝



早稲田大学
山本 純平

利につながったので、昨年が一番印象に残っています。

木澤 私も1年生の時の早慶戦が印象に残っていて、自分は試合には出ていませんでしたが、その時は4年生の大塚さんがチームを引っ張ってプレーしていました。4ピリまで負けていたにもかかわらず最後逆転勝ちで勝利を収めたという、本当にベンチも一体となって盛り上がった楽しかった試合だったので。

山本 木澤と一緒にです(笑)。昨年は負けて、一秒も試合に出ることすらかなわなかった4年生が試合後めちゃくちゃ悔しがっていた。ただただ申し訳なく思ったのですが、やっぱり一番は1年生の時です。

——お互いのヘッドコーチの印象は？

大元 早稲田の財前ヘッドコーチは洛南OBで、毎年12月にOBが集まる飲み会の幹事なんです。そこでの印象しかないのですが、「あの人が早稲田のヘッドコーチに就任する」と聞いた時は驚きました。でも一度試合をやってみて、すごくシステムチックなバスケットをするなと感じました。

黒木 私は、全く知らなかったです。いまはまだよく分かっていません。

木澤 慶應の阪口ヘッドコーチは、細かいところを結構言ったりしているのは耳にします。

山本 私は、阪口さん見ていないので分かりません(笑)。印象があまりないというか…

大元 ただ見てないだけじゃん(笑)。

——オフの過ごし方は？

大元 私は、カフェで読書しています！嘘です。割と体育館に足を運ぶようにはしています。大概体育館に行くと、誰かしらいるので。自主練ですね。本当は、バスケットとその他で切り替えたいのですが、あまりにもすることがなくて。

黒木 寝て、昼にちょっと外出て、ご飯食べて、自主練して、帰ってまた寝て、ご飯食べて、お風呂入って、寝る。コレですね、間違いない。自主練はやっぱりします。特にシーズン中とかだったら、尚更です。

木澤 昨年は、結構一人映画とかしていたのですが、最近は就活が忙しくて、筆記試験に備えてSPIだと



慶應義塾大学
大元 孝文

かOB訪問に行っています。

山本 寝ています。

大元 昨年も、それだったじゃん(笑)。

山本 やることがなくて…

大元 確かにね。意外とやること無いのですよ。

黒木 あと私はスニーカーが好きなので、原宿とかに見に行きますね。チェケラしています。

——早稲田と慶應での選手間の交流はありますか？

大元 あまり無いですね。こういう場で話すくらいで、試合とかでなければ、会わないです。でも、洛南同士とかなら結構上下関係も厳しくないの、話すと思います。大学を超えてしまうとあまりないと思います。

——相手から取り入れたいことは？

大元 昨年のピックは、すごく参考になりました。早稲田は、今年システムが変わっていますが、昨年のあの感じを真似できたら攻めやすそうだなと思います。

黒木 私は、木澤ですね。

大元 また、みんな思い切りシュートを打つのは良いと思います。新川とか伊藤諄哉とか、そういう部分は試合をやっていると感じました。あとは、27番の濱田とか印象的でした。

山本 慶應も結構思い切り打ってくるよね。

木澤 そうだね。でもその中でも黒木とかは確実に

ミドルを決めてくるので、外やるなかでインサイドのフックシュートとかペリメーターを決められると、こっちとしては「ガクッ」となります。そういう部分は尊敬しています。

山本 木澤と一緒に。

一同(笑)。

——4年生ということで、チームをどのようにまとめていきたいですか？

山本 4年が、引っ張っていかねばならないと思います。プレーでも練習でもしっかりと声を出して、自分がやらねばならないという責任感を持っていかねばと思います。

木澤 だいたい一緒ですが、やはり4年生が引っ張っていかねばチームは成り立たないと思うので、そういう中でコミュニケーションを取るようになっています。練習前後にサークルを組んでキャプテンなどを中心に話したり、練習中でもしっかりとコミュニケーションを取っています。4年生に限らず、下級生にも学年関係なく「言いたいことは言うようにしてくれ」と伝えているので、今まで以上にコミュニケーションは取れています。

黒木 慶應の4年生は、高校までキャプテンだった人が多く、13人いますが結構みんなリーダーシップを発揮しています。後輩を巻き込んで大きくしてく



慶應義塾大学
黒木 亮

れる中で、たくさんの個性を持ち合わせて良さを発揮できればいいと思っています。

大元 私は、全てのプレーヤーが全力で取り組むことだと思っています。私たちの練習時間は限られているし、上達するには一人一人が全力で取り組む必要があるはずです。私は、今後一年全力でやると決めていて、黒木も言ったようにそれで全体を巻き込んでいけるようなれればと思います。

——どんなチームにしていきたいですか

大元 今年の私たちのスローガンが「真直」で、真摯に愚直に真面目にという事で、そして私たちが目指すのは、「観客から応援されるチーム」です。2年前のインカレ東海大戦は、うちが負けているのに慶應の応援しか聞こえてこなかったです。全力で取り組んでいるからこそ得られる観客の応援だと思いますし、そういう雰囲気を作り上げていこうと話しています。

木澤 早稲田は、まだはっきりとは決まっていなくて、これから話し合おうと思っています。昨年のイン

カレでの慶應の試合とか見ていると、観客から拍手されたりしていて応援されていたなと思うので、勝ち負け関係なく応援されるというのは非常に大事だと思います。

——早慶戦への意気込み

大元 最後の年なので「絶対に勝利で終えたい」というのが一番なので、勝ちを得るために全てを注ぎ込みたいと思っています。

黒木 みんなで勝利の涙を流そう。コレですね。

木澤 今年で最後ですし、昨年は本当に悔しい負け方をしてしまったので、そのリベンジという意味でも今年は勝ちたいです。「最後は笑って終わるように」と考えています。

山本 個人的にはケガを早く治して、万全な状態で出たいです。全体的には、早慶戦は4年生のための試合といたらおかしいですが、下級生に4年生のしっかりと引っ張る姿を見せられる舞台だと思っているので、4年生から下級生へ残せることをしっかり残したいです。

——過去2年間のシーズンを振り返って感想をお願いします

西戸 大学に入って自分に求められるものがはっきりするような環境になって、自分が考えているようにプレーできたり、求められているものを表現できるようになったことが実感できるようになってきたことが、私が体育会のバスケットボール部に入って充実していると感じる部分です。

後藤 高校までの環境とは、本当に大きく変わりました。個人的には1年生の時プレータイムをもらえず悩んでいたのですが、去年になってやっと少しずつ試合に出られるようになってきたという感じです。この2年間は自分なりに試行錯誤しながら、バスケットボール的にも人間的にも成長できたと思います。

伊藤 嵐みたいでした。高校の時と環境が違い、1年生の時は本当に苦労しました。高校までは、先生から求められることがあったので「自分が何をすればいいか」ははっきりわかったのですが、大学に入ったら1人の選手として自立しなくてはいけなくて、自分に足りないものがあると試合に出られない、とい



早稲田大学

宮脇 隼人 伊藤 諄哉

う状況になりました。自分に何が足りないのか？自分自身で考える力がついたと思います。

宮脇 同じような感じになりますが、自主性です。そのような感じでやってきています。

伊藤 自立しました！

宮脇 そうです、自立しました。自分たちで考えて2年間やってきました。

——自分たちのチームの雰囲気教えてください

宮脇 最高です！早稲田は監督が変わったのですが、みんなすごく楽しそうです。

伊藤 みんな、去年は死にそうな顔していたので(笑)。

宮脇 去年も楽しかったのですが、今年はより楽しくなって、その中にもちゃんと厳しさが良い雰囲気になってきました。

伊藤 コミュニケーションをとるようになりました。ミスしてもドンマイで済まさなくなりましたし、コーチ陣と選手間でも、「私はこうしたい」、「こうした方が良い」などといったコミュニケーションがとれるようになってきました。

後藤 慶應は、3日前までアメリカに研修旅行に行っていました。阪口さんの意向で、みんなで飲んだり遊んだりする事もチームワークの一環として大事だという事で、そのような機会が設けられました。この2年間で同期や縦のつながり、コーチ陣とコミュニケーションをとる機会が増えてきて、良い雰囲気だと感じています。

西戸 学年関係なく仲良く出来ていることが今日の試合にもつながったと思うので、シーズンが始まったばかりですが、さらに学年の壁を超えてコミュニケーションをとっていき、試合につなげていけるようなチーム環境作りができればと思っています。

——お互いの特徴で取り入れたい部分はありますか？

伊藤 慶應は「大きい」というところです。今日試合して思ったのは、「大きくて羨ましい」ということです。それは、「どうしようもないこと」ですけど(笑)。

宮脇 「のびのびしている」と感じました。私たちも

のびのびやっていますのですが、型にはまりすぎて少し固くなってしまっているところがあるので。

西戸 今日の一試合目に東大との試合中、早稲田が隣のコートでの試合で、誰かがシュートを入れるとベンチ全員立ち上がっているのを見て「去年と全然違うな」と思いました。素直に自分たちも「やりたい」と感じました。

後藤 早稲田は、走るのがいいと思いました。やはりガード陣など上手い人が多いので、今日も簡単にゴール下に入れられてしまって、展開の速さなどは盗んでいきたいと今日試合して思いました。

——相手チームのキーパーソンは誰だと思いますか？

伊藤 孝文さんです(笑)。

宮脇 黒木さんだと思います。

伊藤 黒木さんは、止められなかったです。

西戸 去年とかわらず、池田慶次郎さんです。守らないと勝てないと思います。

後藤 宮脇だと思います(笑)。

西戸 諄哉も今日よくシュート入っていたので。

後藤 宮脇がいなくなれば、早稲田はインサイドがないので。

宮脇 いや、トミーという新星が現れました。

——コートの外でのお互いの印象は？

伊藤 慶應は頭がよさそうです。

後藤 慶應ボーイです。

伊藤 後藤のことは中2の時から知っていて、一緒に慶應高校に見学に行きました。

宮脇 話によるとイケイケ系らしいです(笑)。

西戸 でも根は真面目です。確かに遊んでいますけど、それはやる事をやった上での遊びで、上手くやっているな、という感じです。諄哉はずっとストイックなイメージがある。変わった？大学で。

宮脇 全然変わってない。

伊藤 友達がいなくなった(笑)。

宮脇 大学にいても気がつかないんだよな。いつも1人でいて…避けている？

伊藤 実際ちょっと避けている(笑)。宮脇はスポ科



慶應義塾大学

後藤 宏太 西戸 良

に友達いっぱいいて、その輪には入れないというか、知らない人ばかりなので。あんなにいつも囲まれていたら、ね？

西戸 高校の時、学級委員長だったのに(笑)。

伊藤 出席番号1番だったから任命されていた。

後藤 西戸は2年生になってから彼女ができたみたいで、1年生のときはよく泊まりに行かせてもらったりして遊んでいたのですが、最近は忙しそうで、プライベートがちょっと謎に包まれているな、という印象です。

宮脇 ほー。

西戸 気を使わなくても…(笑)。また泊まりに来て。

伊藤 まあ20歳ですし。

宮脇 西戸は、高校の時ケツでかいキャラでした。

伊藤 いまは早稲田にも新星現れたよ。

宮脇 是非早慶戦でマッチアップして。

後藤 西戸は、バスケットに対してはやっぱりすごく真面目。見た目通り。

宮脇 うん、高校の時もシューティングとかいつもしていたイメージ。

伊藤 宮脇は、ジャンクフード好きだね。

宮脇 いや、最近はちょっと落ち着いて来た。

伊藤 IH買ったんでしょ？自炊しようとして。

宮脇 まだ使ってないけど(笑)。買ったまま箱に入っています。とりあえず買っておこう、という感じですよ。

伊藤 みんなそれなりにストイックだな。ここまで来ているくらいだし。

——新しいキャプテンはどうですか？

伊藤 池田さんは、かっこいいです。

宮脇 イケメンです。華があります。

伊藤 全部持っていけます(笑)。

宮脇 いや、それだけじゃないですけど(笑)。

伊藤 あとは、厳しいですね。

宮脇 厳しいね。

伊藤 私生活は…。まあ、個人に任されている感ありますけど…。

宮脇 私たちが少しへらへらしていたら「おい」って。結構ミーティングを開いて学年関係なく意見を言い合う機会を作ってもらえて、いいキャプテンです。

伊藤 感謝です。

後藤 福元さんは、ふくらはぎが…。まあ、優しいですよ(笑)。こうしてふくらはぎとかいじっても、笑いながら「うゑい！」みたいな感じですよ。そういう面もありながらやっぱり頼りになりますので、4年生の中では一番キャプテンらしいかなと思います。



話も上手いです。自分の意見をしっかり持っていて、それを周りと共有することができる人なので。そういう意味ではついていこうという気持ちに、今のところなっています。今後どうなるか分からないですけど(笑)。

——プライベートで会う機会などはありますか？

宮脇 この前いつだったっけ。

伊藤 あれはリーグ戦で、1部と2部が同時開催の時に…。飲み会してそのまま西戸の家に。

西戸 ウィンターだね。

宮脇 ちょくちょく。

西戸 集まる。

後藤 近々、慶早飲み対決やってみたい(笑)。

伊藤 ごっちゃん、面白いのいっぱい持っているから。私たちあんまり酔わないんだよね。

宮脇 そうなんだよね。

伊藤 強いから、なのかな？

宮脇 近々、プライベートで早慶飲みします。

——オフの日の過ごし方は？

西戸 探りあわない(笑)。

宮脇 お互いそっとして(笑)。

後藤 西戸のオフの過ごし方、逆に聞きたい。

伊藤 そこはあえて探らない方向で。自分への攻撃が怖い。

宮脇 僕ら防御力低いので(笑)。何しているかな…。寝ています。とりあえず昼まで寝て…。だらしない生活をしていますね(笑)。

伊藤 去年と同じだね(笑)。

宮脇 学年で遊ぶというのも…。

伊藤 無いね。

宮脇 いや、仲悪いわけじゃないですよ(笑)。各自でやりたいことを…。

伊藤 「してください」みたいな感じです。

後藤 オフの日は、一日寝ていたり…。あと、私は愛犬家なので(笑)。

宮脇 結構SNS、ツイッターで愛犬トークしたり(笑)。とりあえず毎回「イイね」しています。

後藤 散歩したり、買い物したり、オフでもバスケ

したり、遊びは最近控えています。

西戸 そうだね。

後藤 真面目に。

西戸 オフの日は自分のやりたいことを、その時々でいろんな所に出かけていますね。一人の時もあるし、複数の時もあるし…(笑)。

——早慶戦への意気込みを…

宮脇 勝ちます(笑)。とりあえず、去年負けてめちゃくちゃ悔しかったので。

伊藤 何をやっても、汚い手をつかっても(笑)。そのくらいでないよ。

西戸 去年勝っている分、負けたら悔しいので。今年勝てばとりあえず在学中はオープンか、勝ち越しか決まるので絶対勝ちます。

後藤 慶応は、春の目標は「慶早戦に勝つ」ということは去年と変わってないので、絶対勝つってことと、やはり去年勝って嬉しかったので、みんなでおいしいお酒を飲めたらいいなと思います。

——早慶戦は他の試合と違いますか？

後藤 慶應はあるかもしれないですね。早稲田っていうのを常に意識していて、春の一番の目標を慶早戦勝利って置くぐらい、その試合に絶対に勝たなきゃいけないという部員共通の意識があります。六大学においても、先程西戸と話していたのは、とりあえず早稲田に勝ったから気楽だね、ということですよ(笑)。

西戸 慶早戦というだけで、学部の友達や部活の友達が見に来てくれるので負けた姿を見せられないって思いが慶早戦に懸ける思いかなって、私は勝手に思っています。

伊藤 友達はいないのですが(笑)。知り合いは来るので。私も同じような感じですよ。せっかく応援しに来てくれているので、勝ってお互いに喜びたいと思っています。

宮脇 去年、負けるまで特に慶應だからとか意識することはなかったのですが、負けてとりあえず悔しかったので今年もう、うゑい！言葉がでてこないです(笑)。とりあえず勝ちたいです。



——今シーズンの意気込みをお願いします

伊藤 チームの目標は、一昨年早稲田は2部に落ちてしまっ、1部復帰ができなかったの、私たちができることってというのは、先輩についていくこととか。プレーも割と思切り…。

宮脇 何も気にせずにいこうと思います。

伊藤 先輩が補ってくれていた部分があったのですが、今年は上級生の一員ともなるので去年私たちがしてもらったようなことを下級生にやりつつ、4年生もサポートしてプレーしやすい環境を作れたらなと思います。

宮脇 一緒です(笑)。

西戸 慶応のチームの目標は高く、インカレ優勝で、1部に残りながら一つ一つの試合で泥臭く勝利を目指していくスタイルが目標です。春シーズン最後の慶早戦をいい形で終われるようにやっていきたいのと、個人的にはもっとチームへの発言力を持ってみんなを引っ張っていける立場を作って、来年へのステップにできたらなと思います。いままでの2年間以上に充実して自分の成長につなげていきたいと思っています。

後藤 チームの目標は、西戸が言ってくれたようにインカレ優勝なのですが、個人としては阪口さんに「3年生になることで主体者意識を持って」というように言われていて、今までは下級生としてバスケットボールにがむしゃらに取り組んでいましたが、今年はチームの一員なんだというか主体性を持って取り組んでいくということを更に意識していきたいです。

慶應大学
堂本 阿斗ディーン慶應大学
木村 能生早稲田大学
石原 卓慶應大学
トカチョフ サワ早稲田大学
新川 敬大早稲田大学
森井 健太

——六大学リーグを振り返っていかがですか？

森井 新チームになって初めての試合です。監督も変わり「全員試しに使おう」ということになって、いい雰囲気できているので、いいと思います。

石原 新しい監督になって、結構選手主体でバスケットボールをやらせてくれるという感じなので、去年より選手たちが自分のやりたいことがはっきりできて、その分雰囲気もいいのかなと思います。

サワ 去年は伊藤さんがキャプテンでいい意味でのゆとりやリラックス感があったのですが、今年は福元さんがキャプテンで締まりのあるチームになりつつあると思っています。そういった意味では、きちんとした試合をやっていると思います。

堂本 私自身の話になってしまうのですが、出場時間も自分のやることも決まっているので、やりやすくプレーできて、楽しくやっています。

木村 練習期間が短い中でも、ある程度はやっていかなければいけないのですが、今日は立教に負けてしまったので、また明日頑張っていきたいです。

新川 言いたいことをほとんど言われてしまったのですが、去年は下のポジションをやるのが多かったのですが、今年は上のポジションでやれているので、すごくやりやすいですし、自分としてもいい経験になっています。

——お互いのチームの印象は？

森井 慶應は、とても堅い守りで、速い流れを得意とし、シュートもよく入るので、いいチームだなと思っています。

石原 私はガードなのですが、慶應のガードの人たちは背も大きくて、体も強くて、本当に1部でもトップレベルの選手層があります。センター陣もトカチョフなどがいて、実力もあると思います。

サワ 石原、いつから私のことトカチョフって呼んでるんだよ(笑)。

石原 ただ慶應は強いとは思いますが、早慶戦では負けません。

サワ 早稲田の選手は個人のレベルがとても高く、それを個人の能力を活かした合わせだったり、速攻だったり、スリーポイントだったりすごい。一回波にのったら止まらないチームだと思うので、手強い相手だと思っています。

堂本 早稲田は、一言で言うと速攻ですね。

スピードに乗った速攻が、私のイメージに残っています。

木村 サワも言っていたのですが、早稲田は個人の能力がすごく高くて敵わない印象はあるのですが、チームで協力して戦っていきたくと思っています。

新川 慶應は、ガード陣の能力がすごく高く、センター陣も強く、ディフェンスもすごく当たってくるため、やりづらい相手だと思います。とにかく、守りの強さが印象的です。攻めづらいと思います。

——お互いの選手の印象は？

森井 3人とはマッチアップはしてないですけど、センターポジションで仕事をしていて、結構強いプレーを3人ともすると思うので、そういうところはすごいと思います。

石原 サワとは3 on 3で同じチームで戦ったり、あとは夜に体育館借りて色んな人たちと一緒にバスケットをしたりして、結構関わりは多いですね。

サワ 印象は？

石原 サワは、中でゴリゴリやっているイメージがあるのですが、外でスリーポイントも打てるし、ミドルも入るので、相手からしたら嫌かなと思います。後の2人は、あんまり試合見たことないのでわからないですけど(笑)。堂本は、夜バスの時はシューターというか、一本入ったら止まらないという感じですかね。——サワ選手は昨日新川選手とマッチアップされていましたが…

サワ まあ最初出てきた時は、ヤツがついてきたなと(笑)。私は結構休んでいたので、「新川は疲れてい

るだろうから一発やってやろう」と思っていました。それでやったら彼はプライドが高いので、私が気持ちよくなって油断していた部分もあるのですが、すぐやり返されてしまいました。

新川 調子乗っているなと思っていました(笑)。

サワ 調子乗っているじゃなくて、上がっているって言ってよ(笑)。

新川 サワは乗せると厄介なので、流れを断ち切るために頑張りました。

堂本 特に京北出身の2人なので、私が出なかったインターハイやウィンターカップに出場し、プレーはトップクラスだなと思いました。高校時代は、私は見るだけだったのですが、今は対戦相手としてプレーできるので幸せです。

木村 森井は、特に洛南の時から見ていたのですが、敵わないなという印象があって、もうその一言ですね。

——昨年1年間を振り返って…

森井 去年は1部に上がる目標を立てていたのですが、上がりませんでした。チーム的にも落ちている部分があったので、そこを今シーズンはしっかり1部に上げられるように頑張っていきたいです。

石原 去年は、リーグ戦中にチームがバラバラになってしまって、同じ方向にみんなが向いていない感じになってしまいました。その結果リーグ戦の後半に負けて1部に上がれなかったのですが、今年はキャプテンの池田さんや副キャプテンの木澤さんがチームをしっかりまとめてくれて、怒るときはしっかり怒ってくれて、チームが一つの方向に向いているなという感じがします。

サワ 伊藤さんが大好きすぎて、伊藤さんが作り上げたチームも好きで、去年は好き勝手にやらせてもらっていて、本来なら緊張するようなところも私はあまり緊張せずにやれていたのすごく楽しかったです。でも2年生となって1年生が入ってくる中で、もっと堅実に状況を見極めていく必要があると思っています。キャプテンも福元さんですし、好き勝手はできないかなと(笑)。

堂本 去年は、チームがインカレやリーグ戦でいい結果を出す中、私はベンチ外で見ていることが多かったのですが、楽しめたかと聞かれればそこまでは楽しめなかったですね。今年は、充実感がもっと欲しいです。

木村 リーグ戦で出してもらって、先輩達にも助けられて、インカレにも出ることができたので、それはすごくいい経験になったと思います。今年はそれを活かして頑張っていきたいです。

新川 石原も言っていたのですが、去年は途中でチームがバラバラになって勝てなくなってしまって、1部にも上がれずインカレも出られなかったのが、本当に苦労した1年だったと思います。

——尊敬する先輩は？

森井 私は、洛南の先輩でもある河合さんをいろいろな部分で尊敬しています。プレー面もそうですし、精神的にもすごい人です。

石原 私は、京北で一緒だった池田慶次郎さんですね。バスケも上手いし、勉強面でも単位落としていないですし(笑)。いろいろな面で尊敬しています。

サワ 私は、真木さんですね。いまの私が存在しているのは、彼のおかげといっても過言ではないです(笑)。高校の時はしっかりと育ててもらって、今も面倒を見てくれるので感謝していますし、これから恩返ししていきたいです。

堂本 私は、西戸さんですね。エネルギッシュなプレーと疲れを感じさせないディフェンスもあるし、自分で決めるといふ気持ちの強さも人一倍あるので、そこがすごいなと思います。

木村 私は、黒木さんです。寮でも同部屋で、ポジションも一緒に教わることでばかりで、本当に尊敬しています。

新川 私は、同じ高校出身で同じ学部にいる、濫田さんです。勉強とかでも助けてもらっているの、尊敬しています。

——オフの過ごし方は？

森井 最近はバイトをしています。

石原 私いま彼女がいないので…、募集中って書いて

ておいてください(笑)！遊びたいのですが、彼女がいないから…。いまはバイトをしてお金を貯めて、いつか彼女ができたなら一緒においしいご飯を食べたいなと思っています。

サワ そうですね、私は慶早戦に日々備えているので。オフの時間にも腕立て伏せやストレッチをして、しっかりとケガをしないように備えています。オフだからこそ、その点をしっかりと…本当は、私もバイトをしていましたね(笑)。普段から、オフの日はあるだけ家にいないようにして、どこかに出かけるようにしています。私はよく「誰か映画に行こう」とツイッターで呼びかけるのですが、誰からも返事が来ないという(笑)。大抵一人で、映画やどこかに行っていますね。うーん、大切な人とどこかに行きたいところですね。

堂本 私は家族が大好きなので、家族で過ごしています。あとは、バイトもしています。そうですね、私は充実したオフを過ごしているの、私ほどオフを楽しんでいる人はいないと思います。つまり、あの、彼女募集中ではないです(笑)。

木村 それが言いたかっただけ？

堂本 うん。

木村 私も、バイトをしています。横浜のラーメン屋です。

新川 寝るか、友達と遊ぶか、ゲームセンター行くかです。



堂本 そういえば私、旅行に行きました。

一同 いいよ、その話は。

——去年の早慶戦を振り返っていかがですか？

森井 去年、私自身は出ていないのですが、初めて早慶戦と言うものを見てすごく盛り上がっていました。あの雰囲気の中でプレーするのは、すごくいい経験だと思いますし、いい機会だったと思います。

石原 私も試合に出ていないのですが…。早慶戦の前日に雨が振っていて、でも傘を持ってなくて、走ってカーブを曲がった瞬間に、転んでボールに足をぶつけました。雨が振っているにも関わらず、痛すぎて、3秒間くらい寝てたのです。そのことを覚えています(笑)。早慶戦は、慶應でやったよね？日吉で。ライバル校同士の対決で、お客さんがいっぱいいて、試合というよりもお祭りのように感じました。出たら楽しいのだろうな、と思っていました。

サワ 私は、慶早戦がデビュー戦でした。慶早戦は、経験したことも見たこともなかったのですが、普段の練習から、先輩たちの慶早戦に対する意気込みを感じていて、きっと途轍もない試合なのだろうなと思っていて、私も先輩方の気持ちを受け止めて同じような気持ちで練習していました。実際に慶早戦を経験してみて、「うわっ！」と。私は、人が入れば入るほどテンションが上がって頑張りがたくなるタイプなので、「最高だっ！」と思って。高校のウィンターカップなども東京体育館で経験していましたが、そ

れとは違う独特の雰囲気がありました。そこで出させていただいて、いい経験になりました。今年も絶対に勝ちたい。いや、勝つ。そういう思いです。

堂本 私は、小学生の頃から慶早戦をずっと見ていました。まあ、去年も見ていただけだったのですが(笑)。慶早戦に出場するのが一つの夢だったので、その中で同期が活躍しているのを見て、正直うらやましい気持ちもありましたね(笑)。本当に、先輩たちの取り組み方も違って。勝ちたいですね。やっぱり。

木村 去年は、出られなくて悔しい思いをしたので。今年はやっぱり出て、少しでも勝ちのために貢献したいですね。

新川 入学してからずっと、先輩方がすごい雰囲気だと言っていました。いざ経験してみると本当に独特な雰囲気だと思いました。私は、その中でプレータイムをもらうことができ、すごくいい経験になったと思っています。

——早慶戦のキーマンは？

森井 ここまでも何度か話に挙がりましたが、インサイドがカギを握る、と思います。そういう気持ちを込めて、宮脇さん。宮脇さんの踏ん張りがチームにとってカギとなると思います。

石原 私は、新川がキーマンになると思います。新川は、上のポジションでも、下のポジションでも頑張っているの、いま名前が出た宮脇さんと、富田(スポ1=洛南)もいるのですが、富田は1年目です。そこは新川が上も下も頑張ってもらって、走ってもらえたらすごいと思います！今年の早慶戦のキーマンは、絶対に新川です。

新川 (笑)。

サワ 早稲田のキーマンは、おそらく去年と同様に池田さんだと考えています。去年は、池田さんをほぼ完封したことが勝利につながったと考えていて。池田さんをマークすることが前提で、去年はリバウンドも慶應がとて取れていたの、センター陣も奮闘したいと思います。

堂本 リバウンドが大事になると思うので、もちろん全員なのですが、名前を挙げるとすれば西戸さん。

両校ともレベルは一緒だと思うので、気持ちの面で勝つためにはあの気持ちの強さが必要だと思います。

木村 期待も込めてサワに一票。ちょっとサワには頑張っただけです。以上です。

サワ 私の名前を上げたわりには短くて…なんかな…(笑)。

新川 私は、言われてしまったのですが…

一同 「私です」かな？

新川 いや(笑)、宮脇さんだと思います。インサイドは早稲田も弱点だと思うのですが、宮脇さん次第でリバウンドなどの支配率が変わってくると思うので、頑張っただけです。

——意気込みをお願いします

森井 勝てるように一つずつやりきって、後は気持ちだと思うので。頑張りたいと思います。

石原 去年出られなかった悔しさを胸に、今年はあのコートに立って、立つだけじゃなくて活躍します。

そして活躍しつつ、絶対に、勝ちます。

サワ 去年は、4年ぶりに勝ったということで、感動しました。私は、1年目にして勝利するという贅沢な経験をさせていただきました。あの会場であの雰囲気の中で、負けることを考えると、すごく嫌です。だから今年も、何がなんでも、骨が何本折れても、勝ちに行く！勝つ！以上。

堂本 私もまた、一言になってしまうのですが…「勝利」。勝つという気持ちを強く持って、それだけを意識して、泥くさいプレーで貢献できたら嬉しいです。

木村 去年出られなくて悔しい思いをした分、今年はその発散したいです。自分の実力を出して、少しでも爪痕を残して、そして勝ちます。

新川 去年と同じように楽しんでプレーして、勝つと同時に、キーマンにも挙げられてしまったので、期待に応えられるように頑張ります。

早慶

ランキング対決!



早慶ランキング対決。

選手の中で〇〇なのは誰か? という質問を両大学の選手にアンケート。大学別に、得票数に応じてランキングした。

バスケに関することから私生活に至るまで、選手の知られざる一面を垣間見ることが出来るこの企画は必見!!

1. 足が速いのは?

早

- 1位 國枝 健太 (社学4年)
- 2位 池田慶次郎 (社学4年)
- 3位 山内 大樹 (教育1年)

今季も小柄な早稲田。しかしそんなハンデは物ともしない。スピードで他を圧倒する。今季も「走って、走って、走る」。スピード溢れる早稲田の先頭行くのはいつもこの男、國枝健太だ。昨季までは出場機会にあまり恵まれなかったが、今季はチームの主力選手として多くの試合で活躍する姿が期待される。3年間の鬱憤を晴らすかのようにコートの中を暴れ回って欲しい。國枝のスピードは、今年の得点源ともなる重要な武器だ。2位は我らが主将池田慶次郎。昨季よりもさらにスピードに磨きがかかっている。味方ですら見失うほどの速さだ。「速過ぎて顔が見えないから試合観戦に行かない」とファンが言い出すのではないかと心配である。3位は突如現れた新星、山内大樹。入学早々古傷を痛めたため未だ彼の走る姿は十分に披露されていない。にも関わらず堂々の3位。それほど、彼の速さは皆の記憶に残っている。ダッシュ1本目だけなら國枝や池田よりも速いかも。本人曰く「怪我が治ったらもっと速くなってますよ」。その言葉、確かなものとして欲しい。

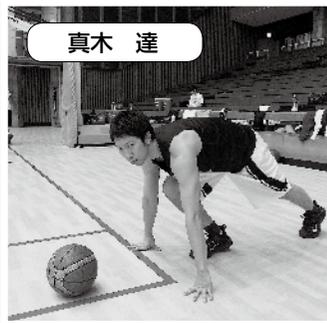


國枝 健太

- 慶
- 1位 真木 達 (環境情報4年)
 - 2位 大元 孝文 (環境情報4年)
 - 3位 大村 航生 (環境情報2年)

本塾で最も足が速い男に輝いたのは、「神速」の通り名を持つ真木達だ。「まるでスピードスケートのような軽快な走り」で、コートをぶったぎる彼の姿を捉えることは至難の技である。その俊敏性を活かした目にも留まらぬクロスオーバーの前に、立つことのできたディフェンスはまだいないという。続いて2位に選出されたのは、大元孝文である。その強靱な太腿から繰り出されるダイナミックかつ美しいストロークは、「もう止まれないのではないかと」と心配してしまうほどのスピードを生み出す。練習後のインターバル走では、彼の前を走れる者はいない。

第3位は、本塾の元気玉こと大村航生である。彼は身長こそ小さいが、その体の中にある無尽蔵のスタミナは、「どれだけ走っても、走っても!」尽きることがない。シャトルラン走で大村に張り合えるのは、おそらくサッカーの長友選手だけだろう。



真木 達

2. 面白い人は?

早

- 1位 木澤 義椰 (人科4年)
- 2位 井上 和之 (スポ科4年)
- 3位 河合 祥樹 (スポ科3年)

仲

が良く、笑いの絶えない早稲田バスケ部。その中で群を抜く1位は、副将の木澤義椰だ。その天然ぶりは、みんなの笑いの渦の中心だ。練習前後のミーティングで真面目な発言をしているのに、なぜか可笑しく聞こえてしまい、笑いを呼ぶ。言い間違いや、聞き間違い、試合中のスローインで普通にラインを跨いでしまったりと、その天然ぶりは至るところで発揮される。「副将としてどうなのか?」言われそうだが、この天然、何だかんだとみんなからの信頼は厚い。「やるときは、やる男」だ。2位は本学の最年長、井上和之だ。常にふざけている。練習後に意味の分からない奇声を発することもよくある。最初は「人見知りをしているの?」というくらい静かだ。しかし、一旦仲良くなると面白いことをずっと言ってくる。飲み会に井上和之は必携です。いつでもお貸しします。3位は師匠こと河合祥樹だ。かなり毒舌で人の事を悪く言うことについて、彼の右に出る者はいない。マシンガンのごとく毒を吐いてくる。河合には嫌われないようにしましょう。



木澤 義椰

- 慶
- 1位 清家 智 (経済4年)
 - 2位 角田侑大華 (トレーナー)
 - 3位 トカチヨフ サワ (環境情報2年)

最

も面白い男に選出されたのは、清家智だ。色々な意味で塾内に名を知らしめている彼のファンは多い。しゃべれば何でも面白いのに、「ポケツッコミ漫才 他人イジリ自虐ネタ」なんでもこなすことができる「とんでもないお笑いマシン」である。今すぐ部活を辞めて、芸人になるべきだろう。続いて第2位は、トレーナーの角田侑大華である。もはや発想がおかしい。考えていることが「ぶっ飛びすぎて」いて面白いのだ。他人をポンコツ呼ばわりする彼だが、「本当のポンコツなのは誰なのか?」そろそろ気づいて欲しいところである。

第3位は、トカチヨフサワだ。陽気で人気者の彼は、話も面白いし芸をたくさん保持している。自分で面白いことを考えてやってくれるので、追いコンなど部のイベントでは彼が大活躍する。ただ変顔をリクエストするだけでも、そのクォリティの高さに驚かだろ。



清家 智

早

3. バスケをしている時と普段のギャップが大きいのは?

- 1位 森井 健太 (スポ科2年)
- 2位 山本 純平 (スポ科4年)
- 3位 石原 卓 (社学2年)

普

段から笑いの絶えない早稲田バスケ部だが、プレイが始まると、ものすごく集中する。そんな中、普段とバスケ中のギャップが1番大きいのは森井健太だ。ただでさえ滑舌が悪く何を言っているのかわからないというのに、「パンピー」、「ぼちぼちっすね」、「わんちゃん」など意味の分からない自分の中の流行ワードを連発してくる。しかしバスケットの事になると顔が変わり、バスケットIQはチーム屈指である。2位はジブリの国からこんにちは!山本純平。「千と千尋の神隠し」の登場人物「カオナシ」を地で行く。普段は「あ、あ、あ、」とすり寄ってくる時の「カオナシ」がバスケになると、まるで「カエルと油屋の番頭」を食べて豹変した「カオナシ」になる。「千が欲しい、千が欲しい」と執拗に千尋を喰おうとする「カオナシ」の姿は、リバウンドをもぎ取りリングに向かう山本の姿と重なる。練習のスクリーンでは、審判の後輩をも喰おうとする(笑)。3位は「小学生」石原卓。普段はまるで小学2年生のように常にはしゃぎまわっている。バスケが始まってもやっと中学3年生ぐらいだろうか。1つのプレイに一喜一憂。ミスすればいいいけ、いいプレイをすればやたらはしゃぐ。しかしそれも彼の良いところ。石原が乗ったら誰にも止められない。



森井 健太

- 慶
- 1位 黒木 亮 (環境情報4年)
 - 2位 田辺 夏彦 (学生コーチ)
 - 3位 後藤 宏太 (環境情報3年)

第

1位は、大黒柱の黒木亮である。普段の彼は、温和で人当たりが良く陽気な性格である。だが「バスケをしている時の彼は真剣」そのものであり、時には気迫をむき出しにしてゴール下の荒々しい争いを制する。とてもチーム思いであり、勝利に必要なならばチームメイトにも強い言葉をかける黒木の一面も、みんなから信頼される魅力の一つだ。

第2位は、学生コーチの田辺夏彦だ。彼は普段の練習時はあの名将フィル・ジャクソンかのごとく練習の指揮を振る舞うが、練習が終わると本来の温和な性格を取り戻し、優しい一面を見せる。オン・オフの切り替えや友好関係も大事にしている彼は部員からの信頼も厚い。

第3位は、後藤宏太だ。一見「ちょいワルでやんちゃそう」な彼だが、バスケに対してはとても真面目であり、練習・ウェイト・自主練全てに主体的に取り組んでいる。女の子には、ぜひ彼のプレイを見てもらいたい。



黒木 亮

早

4. 知的な人は?

- 1位 井上 和之 (スポ科4年)
- 2位 池田慶次郎 (社学4年)
- 3位 橋本 悠平 (教育2年)

文武両道を志す早稲田バスケットボール部。その中で一番知的なのは誰か。1位に輝いたのはやはりこの男、最年長、井上和之だ。彼が大隈奨学生だということは周知の事実。面白いランキング2位に入っている事も納得できる。なぜなら噂によると、彼は男性向け女性向けと笑の質を考え、使い分けているらしい。面白さも全て計算されているのだ。次いで2位にランクインしたのは、池田慶次郎だ。まさに才色兼備とはこの男の事を言う。知的、バスケうまい、イケメン、さらに優しいときた。完璧な男である...と思いきや、彼には弱点がある。本当に何を言っても面白くないのだ。3位は2年生橋本悠平。高校時代から優等生で、アメリカに住んでいた経験もあり流暢な英語を話す。その勉強の頭の良さをもう少しバスケットに活かして欲しいと思うのは私だけではないはずだ。182cmと平凡な身長ながらチーム1の最高到達点で軽々と激しいダンクを叩き込む。その上シュートがうまい。だが試合に出ると、何をしたらいいのかわからずに迷子になってしまう。バスケットを始めてまだ4年というバスケット歴の浅さを持ち前の知的さで埋めていってほしい。



井上和之

慶

- 1位 平山 浩樹 (法律4年)
- 2位 桑原 竜馬 (経済4年)
- 3位 林 源 (学生コーチ)

知的な人第1位に選ばれたのは、本塾の主務を務める平山浩樹だ。全知全能の神ゼウスの生まれ変わりである彼は、常に冷静な判断と的確な対処で部を支えている。指定校推薦で法学部を突破した彼の身の周りに溢れ出す気品と教養は、素敵で知的な平山の人柄を表しているだろう。第2位は、土佐藩出身の桑原竜馬である。彼は、高校時代に神奈川国体メンバーまでバスケを続けながら、同時に血の滲むような努力を続け経済学部合格した。まさに本塾體育會の模範となる、文武両道の体現者である彼がこのランキングに入るのは当然だろう。第3位は、慶應義塾高校の学生コーチである林源だ。彼の真摯な眼差しと、ミーティングで発するダンディな声には、もはや知性しか感じられない。その知性に皆驚愕し、4年生でさえ彼のことを「げんさん」と呼ぶ。



平山浩樹

早

5. 服装がお洒落なのは?

- 1位 八川 修士 (商4年)
- 2位 佐藤 智也 (社学3年)
- 3位 南木 俊樹 (社学2年)

東バスケ界一オシャレと噂の早稲田男子バスケ部。そんな激しい戦いの中、他を寄せ付けずに圧倒的な力を見せつけ1位を獲得した男がいる。そう、この男八川修士だ。来年末に入川のシグネチャーモデル、「Y P 23」が某有名ブランドから発売される事が決定している。かつてのジョーダン狩りならぬY P狩りが予想されるほどに世間から注目を浴びているのだ。老若男女問わず八川に憧れ、真似する時代が直に来るだろう。2位、3位は佐藤智也と南木俊樹。早稲田バスケ部夜遊び隊の2人がランクインした。2人は、練習が終わると、なんだかうるさい音楽を流しながら自主練をし、終わると体格を生かしたピチピチのTシャツの上に革ジャンを1枚羽織って2人仲良く夜の街に繰り出すのだ。2人のオシャレな服装だけでなく、どこで身につけたのだろうか、軽快なダンスワーク...ではなくステップワークにも注目だ。



八川修士

慶

- 1位 トカチョフ サワ (環境情報2年)
- 2位 金井 堅介 (環境情報3年)
- 3位 柴田 篤志 (経済4年)

おしゃれな人1位に輝いたのは、トカチョフサワだ。何を着てもかっこいいが、モデルもこなす彼は、当然服のコーディネイトも一流である。部則スレスレのセーターを着てくるなど、制服においてもめかりはない。そんな彼は、最近銀座のアバクロでバイトを始めたので、「おしゃれに悩んだら」ぜひ彼を訪ねて欲しい。第2位は、副務の金井堅介である。彼は、環境に適應する能力が高く、3月のアメリカ研修の際も「成田空港の時点でサングラスを装備」し、いち早く自らを「アメリカナイズ」していた。革ジャンやコートなど「なんでも着こなせる」彼の高い身長と長い足を、有効活用したファッションは必見である。第3位は、ラコステと柴田篤志だ。彼は、もはや「ラコステ以外」は洋服とみなしていない。おそらくラコステの年間売り上げの半分は、彼によるものだろう。最近では、「弁当箱もラコステにした」というのだから驚きである。



トカチョフサワ

早

6. 努力家は?

- 1位 永井 良佳 (理工4年)
- 2位 伊藤 諄哉 (人科3年)
- 3位 濱田 微千 (社学2年)

稲田一努力家な男は誰か、1位は永井良佳。2位は伊藤諄哉、3位は濱田微千だ。選ばれたのは3人がチーム全員日々の練習、練習前後のシューティング、ウェイトで追い込み目標に向け本気で取り組んでいる。しかしそれ以上に努力家なのは女バスの皆だと思います。いつも隣で大きな声を出してチーム全員で声を掛け合い、辛そうなのに楽しそうに練習して、練習が終わるとほぼ全員が遅くまで残ってシューティングをしている。女バスの取り組みを真似して行っている事もあります。昨シーズン「日本一」という目標を成し遂げた女バスの皆を僕たちは本当に尊敬しています。しかし、今年は僕達も「二部優勝一部昇格」、「日本一」という目標を必ず成し遂げます。今年は男女共に努力の早稲田と呼ばれるくらいに本気を出し、男女共に「日本一」を目指します。男子は特にまだまだ未熟ではありますが、これから最善の努力をし、成長し、必ず目標を成し遂げるので、そんな早稲田大学バスケットボール部の姿を見ていてください!!



永井良佳

慶

- 1位 中島 一樹 (総合政策4年)
- 2位 大元 孝文 (環境情報4年)
- 3位 西戸 良 (総合政策3年)

努力家な人第1位は、本塾の冷蔵庫こと中島一樹だ。シューティングだけでなく、ハンドリング・ウェイト・体幹など必要なものを考え、「全てに力をつぎ込む姿」は部員の良き模範となっている。彼と一緒にトレーニングすると、「自分もより頑張れる!」という声も多い。その怪物のような体で、相手ガード陣を圧倒するのだ。第2位は、大元孝文だ。オフシーズン・シーズン中関係なく「常に莫大な量!」のシューティングを行っている。また、練習後にもかかわらず「走り回りながらディフェンス付き」のシュート練習をこなす彼は、まさしく本塾のエースである。部室から帰る前の「スマブラ練習」にもめかりはない。第3位は、上級生となった西戸良である。黙々ときついトレーニングをこなす彼の驚異的な足腰は、限界まで自分を追い込んでいる証だ。彼の足とフイジカルを使ったディフェンスは、チームの大きな力となっている。



中島一樹

早

7. 将来いいお父さんになりそうなのは?

- 1位 山宮 弘毅 (教育4年)
- 2位 宮脇 隼人 (スポ科3年)
- 3位 長谷川 暢 (スポ科1年)

将来いいお父さんになりそうなのは? そんなどうでもいようなランキングで見事1位に輝いたのは学生コーチの山宮弘毅だ。ワセダクラブで子供たちにバスケを教えている姿からも容易に想像できる。ただ食べるのが好きすぎてすぐ太ってしまうため、子供も太ってしまうのではないかと、溺愛しすぎて甘々な子になってしまうのではないかと、という一抹の不安もある。本人は、「カッコよくて優しい、さらに面白い、完璧な山ちゃんが良いお父さんになること間違いない」と豪語する。2位はこの男、宮脇隼人だ。彼の可愛く素敵な笑顔は泣いている赤ちゃんをも笑顔にするだろう。チームメートの中にも、あの笑顔で「いない、いない、ばあ」されてみたいと思っているメンバーもいるはずだ(笑)。3位は長谷川暢。能代工業で鍛え上げられたストイックさで、子供には厳格な父となる事が想像される。ついこの3月まで高校生だったとは思えないほど、既にチームを引っ張っている雰囲気を持つ彼は、「いつでも家族を護ってくれる良いお父さん」になるだろう。



山宮弘毅

慶

- 1位 福元 直人 (環境情報4年)
- 2位 黒木 亮 (環境情報4年)
- 3位 丸岩 伴彬 (トレーナー)

いい父親になりそうなお父さん第1位は、本塾の主務を務める福元直人だ。そのふくらはぎに詰まったキャプテンシーは、まさに主将にふさわしく、チーム全員が彼を信頼している。そんな彼は、「時に厳しく、時に優しく」我が子を立派に育てるいい父親となるだろう。「彼の子供になりたい」という部員も多い。続いて選出されたのは、黒木亮である。身体が大きく「心の器も広い」彼は、長きにわたってチームの大黒柱を担ってきた。そんな彼は、おそらく「一家の良き大黒柱」として家族を支えるだろう。第3位は、トレーナーの丸岩伴彬だ。「自分の父親をとて尊敬している」という彼は、おそらく「自分もそういう父親になろう」と努力するだろう。そして、またその姿を見た子供も、彼を尊敬するに違いない。



福元直人